

別添資料 1

令和 2 年度

幼保小連携活動 報告

令和 3 年 4 月

足立区教育委員会

就学前教育推進課

目 次

はじめに	3
I 担当校・担当園及び担当者会議	4
1 担当者会議開催日	
2 担当校・担当園	
II 幼保小連携活動状況	5
1 連携活動の取り組み	
2 休校を経た子どもの姿、及びそれらを踏まえた取り組みや主な成果	
3 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に関する主な成果	
4 コロナ禍で工夫した点や取り組んで良かった点	
5 令和3年度に向けた主な課題	
6 コロナ禍における具体的な取り組み事例	
III 各ブロック幼保小連携活動報告	11
第1ブロック	12
第2ブロック	16
第3ブロック	19
第4ブロック	22
第5ブロック	26
第6ブロック	29
第7ブロック	33
第8ブロック	36
第9ブロック	38
第10ブロック	41
第11ブロック	44
第12ブロック	46
第13ブロック	50

《 参考資料 》

- 「あだち幼保小接続期カリキュラム 家庭版」について
- 令和2年度 幼保小連携ブロック別一覧

はじめに

足立区では、子どもたちの発達と学びを幼児教育から小学校教育へつなげていくため、平成18年度に幼保小連携活動に取り組み始めて以来、令和2年度末で15年が経過しました。区内を13の地域に分け、地域ごとに就学前施設（私立幼稚園、認定こども園、公私立保育所、5歳児が在籍する認証保育所）と小学校の関係者が集い、創意工夫を重ね、交流活動を充実してきました。

しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、感染対策を徹底した上で可能な方法での実施に限定し、飛沫感染や接触感染が懸念される活動は中止せざるを得ない状況となりました。

それでも、校長や施設長のリーダーシップの下、連携校・連携園が充実した話し合いや情報共有を行い、子どもたちのより良い接続に向けて、これまで以上に工夫された様々な活動が計画・実施されました。

令和3年度も感染症対策をしながらの活動が予想されます。コロナ禍だから中止するのではなく、コロナ禍だからこそ新しい工夫に取り組んでいただきたい、今回報告された取り組みをぜひご参照いただけますと幸いです。

2か月以上に及ぶ長期休園・休校により、小学校入学期の子どもたちに例年とは異なる姿が見られたことや就学前からの保護者との連携・情報発信の必要性に関する報告もありました。保護者の皆さんに対する就学に向けた情報発信については、区と小学校・就学前施設が連携を図りながら、「あだち幼保小接続期カリキュラム（家庭版）」を活用して進めていきたいと考えております。

学校及び就学前施設の素晴らしい創意工夫に改めて感謝いたしますとともに、その工夫や取り組みが区内に広がることを願っております。子どもたちが幼児教育から小学校教育に円滑に移行できるよう、引き続き関係の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

令和3年4月
足立区教育委員会
教育指導部就学前教育推進課

I 担当校・担当園及び担当者会議

担当者会議開催日

	1回目	臨時会	2回目
日時	令和2年4月24日(金) 中止	令和2年8月3日(月) 10:00~11:30	令和2年1月29日(金) 中止
会場	げんき 研修室3	げんき 研修室3	げんき 研修室3

担当者一覧

ブロック	学校名	校長名	園名	園長名
1	千寿常東小学校	加藤 敦彦	緑町保育園	國上 悦子
2	江北小学校	八木 雅治	上沼田保育園	清水 やす子
3	西新井小学校	加納 和彦	本木保育園	梶原 里美
4	栗原小学校	田中 泰徳	梅田保育園	中山 清子
5	弘道第一小学校	佐々木 浩志	中央本町保育園	沢井 範子
6	東綾瀬小学校	各務 友二	あやせ保育園	上原 久栄
7	中川北小学校	笹原 天平	大谷田第一保育園	大塩 孝子
8	栗島小学校	淵脇 薫	平野保育園	山田 早苗
9	花畑第一小学校	荒川 君絵	東花畑保育園	守屋 久美子
10	西保木間小学校	出水 典克	保木間保育園	阪本 孝子
11	栗原北小学校	吉田 益巳	伊興保育園	久保井 佐智恵
12	鹿浜第一小学校	木村 浩昌	鹿浜こども園 第一園舎	絵野沢 真貴子
13	足立入谷小学校	添野 誠	いりや第二保育園	福島 律子

私立幼稚園代表	ふちえ幼稚園	古庄 宏吉
私立保育園代表	やよい保育園	川下 勝利

Ⅱ 幼保小連携活動状況

1 連携活動の取り組み

(1) 取り組み方針と実施校・園数（教員・保育者の交流研修、園児と児童の交流）

- ア 令和2年度の取り組み方針として、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、可能な方法で実施すること、及び飛沫感染や接触感染などが懸念される活動は中止することとした。
- イ 感染状況を踏まえながら、連携校・連携園が工夫をして交流活動を計画した。
- ウ 足立区の感染状況や二度にわたる緊急事態宣言の発出により計画通りに実施できないことも多く、実施できた校・園数は下表の通り。

	全校・園数	予定をしていた校・園数	実施できた校・園数
私立幼稚園・認定こども園	51	41 (80%)	36 (71%)
私立保育園	99	96 (97%)	90 (91%)
公設民営保育園	15	15 (100%)	14 (93%)
区立保育園・区立認定こども園	31	31 (100%)	31 (100%)
認証保育所	8	4 (50%)	4 (50%)
小学校	69	69 (100%)	69 (100%)

※ 令和2年度現在、5歳児が在籍していない園は上記の表に含めていない。

※ 感染リスクを最小限にするため、実施しないとした園は17園あった。

(2) 活動内容の傾向

ア 子どもの交流

令和2年度は、学校を紹介するDVDを作成・配布したり、園児の質問に手紙で回答したり、学校生活をポスターにして配布するなどの工夫が見られた。子ども同士の直接交流は少なかったが、園児が入学への期待や意欲を高め、小学生への憧れの気持ちをもつことができた。(具体的な事例はP7～P10)

イ 職員交流

電話やメールでお互いの情報を交換することが多かったが、連携校・連携園が接続期の指導について話し合ったり、就学前施設から要録を持参する際に子どもの姿を共有したりするなどの工夫が見られた。

2 休校を経た子どもの姿、及びそれらを踏まえた取り組みや主な成果（各ブロックの報告書より）

(1) 休校を経た子どもの姿

- ア 緊急事態宣言が解除され、分散登校期間中の令和2年6月に実施した「小学校第1学年アンケート」の調査結果によると、「挨拶や返事」「姿勢よく座る」「静かに話を聞く」「鉛筆を正しく持つ」「ひらがなで自分の名前を書く」の5項目については、前年度を上回るかほぼ同水準の結果となっていた。

II 幼保小連携活動状況

- イ 生活リズムの乱れ、家庭学習の未実施、体力低下など児童間に開きが出ていた。
- ウ 休校期間中に各家庭で学習したため、入学時に自分の名前をひらがなで書くことができた。ただし、学校で鉛筆を持つ指導をする前に誤った持ち方を身に付けてしまった児童もいた。
- エ 姿勢の保持ができない児童が多い。
- オ 新型コロナウイルス感染症予防については、園においても手洗い指導を丁寧に行い
入学してきたので、児童の意識は高かった。

(2) 子どもの姿を踏まえた取り組みや主な成果

- ア 分散登校は少人数だったため、カリキュラムにあった指導を丁寧に行えた。
- イ 子どもが集中して取り組める環境をつくった。教室の掲示物を整理し、特に黒板周りの掲示物を減らし、机上に置く物を確認した結果、集中力が高まった。
- ウ ひらがなの学習の際、誤った書き順の修正、正しい書き順の指導を丁寧に行った。
- エ 鉛筆の誤った持ち方がかなり定着してしまっていたため、持ち方指導を繰り返し行った。
- オ 正しい姿勢を意識できるように、「座って話を聞く時の姿勢」「書く時の姿勢」「音読をする時の姿勢」など、場面ごとに正しい姿勢を示したり、リズムカルな合言葉を子どもたちと一緒に唱えたりして姿勢の意識が高まってきている。
- カ 体幹の弱さが姿勢保持能力の低さにつながっているため、体育の授業において、体幹を鍛える運動を取り入れた。

3 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に関する主な成果(各ブロックの報告書より)

- (1) 全てのブロックにおいて「あだち幼保小接続期カリキュラム」が活用された。
- (2) 小学校と就学前施設が互いの教育・保育内容を把握して、幼保小の接続が円滑にいくよう努めることができた。
- (3) 週案の指導項目を学年で統一し、指導内容を確認しながら取り組むことができた。
- (4) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」をもとに校内で研修を行ったり、新規採用職員への指導に活用したりした。
- (5) 分散登校で3日に一度の指導であったため、週案モデル通りにはいかなかったが、モデル週案の指導内容等が大変参考になった。
- (6) 基本的な生活習慣<生活を自らつくる>の取り組みで、プログラミング学習を取り入れ、朝の身支度の順番を自分で考え実際に行動した。自ら進んで一定時間内にできるようになった。
- (7) 言葉の活動をブロック全体で取り組んできたことで、学校生活に順応しやすく、ひらがなの読み書きの習得にスムーズな傾向が見られた。
- (8) 「幼保小接続期教育研修」での活用により、幼稚園及び保育園のカリキュラムへの理解が深まり接続を意識した指導を行うことができた。

4 コロナ禍で工夫した点や取り組んで良かった点（各ブロックの報告書より）

- (1) 連携園に向けて、児童が学校生活を紹介するポスターを作成し配布した。
- (2) 事前に各園の年長児から質問を受けて学校紹介 DVD を作成したり、DVD を視聴した園児からの質問に答えたりした。園児の入学への期待を高めるとともに、1年生が動画づくりをすることを通じて、新入生の思いを考えることができた。
- (3) ZOOM、ビデオレターなどの ICT を活用した新しい交流の形式が確立した。
- (4) 就学前施設を通して、入学予定の保護者に学校紹介パンフレットを配布した。
- (5) ブロックとしての課題「言葉の活動」の取り組みを一覧表にまとめることで、情報共有ができた。

5 令和3年度に向けた主な課題（各ブロックの報告書より）

令和3年度に向けた主な課題は以下の通り。また、就学前教育推進課においては、「⇒」に記載の通り各ブロックにおける検討・取り組みを支援していく。

- (1) 幼保小の接続について、1年生担任だけではなく、学校全体での共有が必要。
 - ⇒ 「あだち幼保小接続期カリキュラム」を各学校のクラス数分、令和2年度末に送付。学校全体での共有や取り組みを促す。
- (2) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の更なる周知と、小学校におけるモデル週案簿の活用促進が必要。
 - ⇒ 接続期教育研修において説明し活用を促すほか、効果的な活用方法を収集・紹介し広めていく。
- (3) 幼保小連携活動を縦だけでなく横の連携にも活かし、教育・保育の質の向上を図る。
 - ⇒ 令和3年度に新設する幼保小連携アドバイザーが中心となり、幼保小連携のほか、保保連携・幼保連携などの横の連携を広げていく。
- (4) 保護者への情報発信の強化が必要。
 - ⇒ 学校と就学前施設が連携し、5歳児の保護者会等の機会に、『「あだち幼保小接続期カリキュラム」家庭版』を活用しながら、保護者への発信を行う。

6 コロナ禍における具体的な取り組み事例

(1) 1ブロック

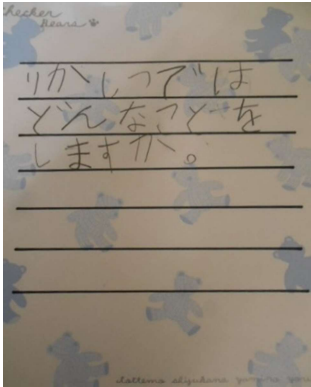
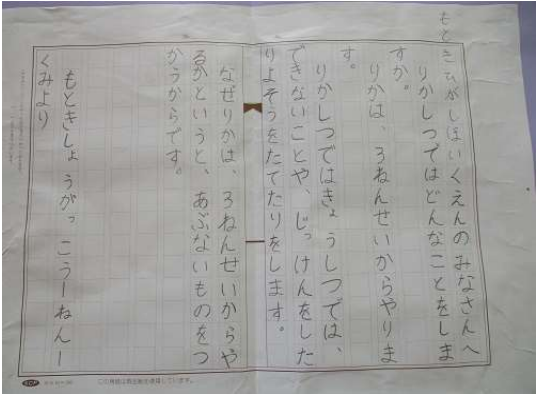
ブロックとして6校全てがそれぞれの学校の紹介ビデオを作成した。就学前施設は6校の中から1校を選びDVDを視聴した。1年生が登場する場面もあり、園児たちは真剣に見て、入学への期待を膨らませていた。

(2) 13ブロック

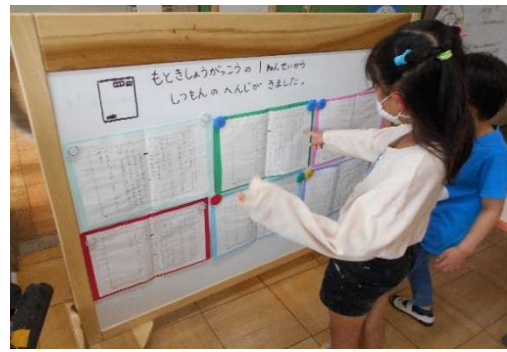
豊かな言葉の獲得をめざした読書活動やことば遊びをテーマに、ブロック内の全園・校において質的・量的に言葉の活動を取り入れている。その結果、学校生活に順応しやすくひらがなの読み書きの習得がスムーズな傾向にある。全園・校の取り組みを一覧表にまとめたことで、更なる取り組みの発展と継続が期待される。※P53 参照

II 幼保小連携活動状況

(3) 本木小学校と足立愛育幼稚園・第一若草幼稚園・本木保育園・本木東保育園 園児が小学校生活に関する質問を手紙で送り、1年生が手紙で回答した。

	園児からの質問	1年生からの回答
1	お誕生日会はありますか	ありません。なぜなら学校は勉強をするところだからです。お誕生日会がない代わりにお楽しみ会があります。
2	お泊り会がありますか	ありません。なぜなら、今緊急事態宣言なのでお泊り会はありません。だけど、緊急事態宣言が少し収まったらできるかもしれません。5年生からは、移動教室があつてみんなで泊まります。
3	ランドセルの中には何をを入れるの	教科書やノート、筆箱などのものを入れます。また、予備のマスク、予備のハンカチ、予備のティッシュなどのものを入れます。ランドセルに入れるものは、前の日に用意します。
4	学校にお弁当を持っていくことはありますか	生活科の見学の時や、運動会の時に持っていきます。土曜日に学校があるときがあります。学校の後、学童に行く人はお弁当を持っていきます。
5	遠足にはいきますか	本木小学校は遠足はありませんが、1、2年生は生活科見学というものがあります。3から6年生は、社会科見学があります。バスに乗って水族館や動物園に行つて勉強をします。
6	理科室ではどんなことをしますか 	理科は、3年生からやります。 理科室では、教室ではできないことや、実験をしたり予想を立てたりします。 なぜ理科を3年生からやるかというのと、危ないものを使うからです。 

※ お手紙はひらがなで書かれていますが、読みやすいよう漢字で表記しています。



本木小学校からの手紙を、友達と一緒に読んでいる園児

(4) 千寿第八小学校とせきや保育園・千住あずま保育園

就学前施設に、児童が学校生活を紹介するポスターを作成し届けた。

例) 朝の準備 → 道具箱の絵

算数 → ノート、数ブロックの絵

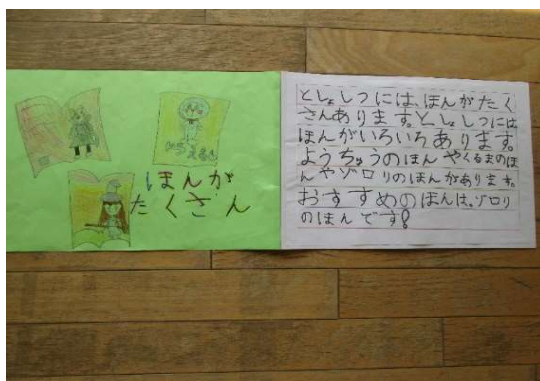
図書室 → 本の表紙の絵



朝の準備 (道具箱の絵)



算数 (ノート、数ブロックの絵)



図書室 (本の表紙の絵)

II 幼保小連携活動状況

(5) 古千谷小学校と舎人幼稚園・足立つばめ幼稚園

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により対面での活動が中止となったため、子どもたちが一緒に関わることができる活動として、形に残る共同制作に取り組んだ。

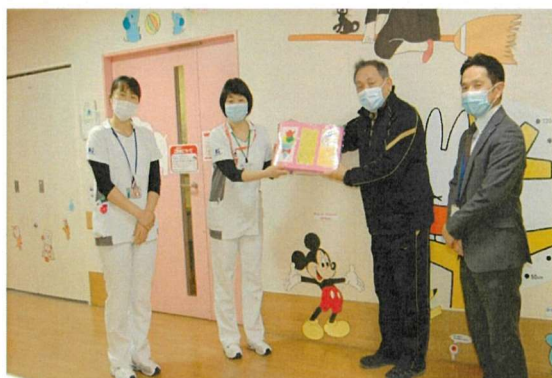
- ・ 医療体制が逼迫する状況、病院や高齢者を介護する従事者に対する理解を深める。
- ・ 地域での医療福祉は、自分たちが生活する上で欠かせない存在であることに気づく。



つばめ幼稚園 古千谷小学校 舎人幼稚園



共同制作した感謝状



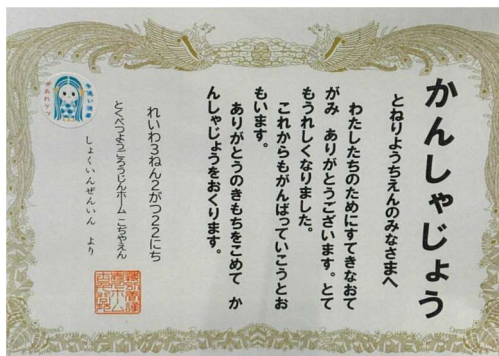
つばめ幼稚園から 博慈会記念総合病院様へ



舎人幼稚園から 西新井病院様へ



古千谷小学校から 古千谷苑様へ



病院からの感謝状

Ⅲ 各ブロック幼保小連携活動報告



令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第1ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【千寿常東小学校】

担当園【緑町保育園】

小学校名	千寿小学校	千寿本町小学校	千寿双葉小学校
連携園	①あい保育園千住大橋 ②足立幼稚園 ③ういず千住大橋駅前 保育園 ④クレーナーサリー 千住大橋 ⑤中条幼稚園 ⑥まなびの森保育園 千住大橋 ⑦緑町保育園 ⑧その他	①Jキッズルミネ北千住 保育園 ②ステラ千住ふたば 保育園 ③その他	①北千住もみじの森 保育園 ②千住保育園 ③千住寿幼稚園 ④その他
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④⑤⑥⑦	②	②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①公開保育 ①公開授業※ ⑥情報提供(園→学校)	③情報提供(園→学校) (中条幼)	
園児の学校体験	①学校探索※ ②むかし遊び※ ④校庭探索※ ⑦同上		
子どもの交流	①小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 ②同上 ③同上 ④同上 ⑦同上 ⑧同上(北千住こども園)	②小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 ③同上(中条幼)	④小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 (Jキッズルミネ北千住 保)
保護者支援	⑥入学説明会参加※ ⑦情報提供(学校→園) ⑦入学説明会参加※		②入学説明会参加
その他			

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第1ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【千寿常東小学校】

担当園【緑町保育園】

小学校名	千寿常東小学校	千寿桜小学校	千寿第八小学校
連携園	①ういず千住曙町保育園 ②北千住太陽保育園 ③北千住どろんこ保育園 ④キッズガーデン 足立柳原 ⑤日ノ出町保育園	①北千住こども園 ②たんぼぼ保育所 北千住園 ③元宿こども園 ④その他	①せきや保育園 ②千住あずま保育園 ③その他
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④⑤	①②③④	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	③小学校接続について WEB研修実施の情報 提供	④交流研修(園→学校)※ (北千住もみじの森保) ④授業参観※ (北千住もみじの森保) ④保育参観※ (北千住もみじの森保) ④交流研修(園→学校) (千住保)	①情報提供(園→学校) ②同上 ②1年生教室見学 ③5歳児担任学校訪問 (ういず千住曙町保)
園児の学校体験			
子どもの交流	①小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤ビデオ交流：5歳児の 質問に1年生が答える	①1年生から園児に向け たビデオレター ②小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 ③同上 ④同上 (北千住もみじの森保) ④同上 (千住保)	①小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 ：お礼の手紙を送る ②同上 ①1年生が作成した学校の 様子(描画と説明文)を 園児に提示 ②同上 ③小学校が作成した学校 紹介DVDを園児が視聴 (ういず千住曙町保)
保護者支援	②保護者向け校長講話※ ③入学説明会参加※ ⑤後期保護者会にて校長 講話※	④入学説明会参加 (千住保) ④入学説明会資料配布 (クレーナーサーリー 千住大橋)	②入学説明会参加※
その他			②自己紹介シートの交換 ③同上(日ノ出町保) ③同上(北千住太陽保)

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

Ⅲ 第1ブロック

1 課題

(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題
・前年度の課題は「公開保育や学校公開などで見取る園児・児童の姿をより明確にする」であったが、コロナ禍でできなかった。Zoom等の活用については今後の検討課題である。
(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題
・緊急事態宣言解除後の令和2年6月に実施した「小学校第1学年に関するアンケート」の調査結果によると、「挨拶や返事」「姿勢よく座る」「静かに話を聞く」「鉛筆を正しく持つ」「ひらがなで自分の名前を書く」の5項目については、前年度を上回るかほぼ同水準の結果になっていた。生活リズムの乱れ、家庭学習の未実施、体力低下など児童間に関きが出ていた。特に、鉛筆の持ち方の定着には時間がかかった ・新型コロナウイルス感染症予防については、園においても手洗い指導を丁寧に行い入学してきたので、児童の意識が高かった。登校開始後は、集団活動や子供同士の関わりが少なく、人間関係を構築したり互いのよさを気付いたりすることが不十分になっている。また6年生や2年生、園児との直接的な交流ができなかった。
(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題
・カリキュラムを十分活用するまでには至っていなかった。休校期間中など、区全体として保護者への啓発を図っていくことが今後の課題である。

2 今年度の具体的な取り組み

(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果
・コロナ禍で直接的な関わりはもてなかったが、次の視点に立って具体的な活動を進めた。 ①小学校から幼稚園、保育園への情報提供 小学校への就学にあたり不安と期待をもつ保育園児・幼稚園児のために、動画等を作成し情報提供を行った。その中で1年生が登場する場面もあった。(原則、各園1校限定) ②就学前施設からの情報提供 個々の小学校において幼稚園や保育園の保育士等から教員へ就学児の情報提供を行った。
(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果
・今年度はほとんど実施していないが、教員の児童理解に生かした。
(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点(幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み)
・小学校においては、異なる保育園、幼稚園同士の児童が就学している現状を鑑み、可能な限り学級内での子供同士の交流活動に努めてきた。 ・依頼のあった園のみ小学校の校庭での見学を許可した。 ・いくつかの園にむけて児童が学校生活を紹介するポスターを作成し配布した。 ・入学説明会での保護者への就学に向けての具体的な取組の情報提供。園からの出席。 ・小学校の校庭や校舎を、園児が外から見学した。 ・小学校の音楽発表会を園長(開かれメンバー)が参観できた。
交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針

- ・小学生が園児を労り、園児は小学生に憧れるという機会や場を設定することは大事であるので、ソーシャルディスタンスを意識した活動の工夫を研究・開発していく。(動画含め)
- ・園児も小学生も声の大きさを意識した発表の仕方や、TPOに合わせた言葉遣いなどのコロナ禍だからこそより具体的に指導していくことがあると認識した。

(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針

- ・来年度の状況にもよるが、コロナ禍で就学児を学校に招く等交流活動のより工夫を図ること。
- ・交流可能になったならば、昨年度同様、公開保育や学校公開などで見取る園児・児童の姿をより明確にすることを課題とする。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第2ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【江北小学校】

担当園【上沼田保育園】

小学校名	江北小学校	高野小学校	扇小学校	宮城小学校
連携園	①足立サレジオ幼稚園 ②江北さくら幼稚園 ③江北保育園	①上沼田保育園 ②江北すきっぷ保育園 ③にじいろ保育園江北	①あい・あい保育園高野園 ②さつき保育園 ③その他	①東京白百合幼稚園 ②宮城保育園 ③足立しらゆり保育園 ④三星保育園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③	①②③	①②	①②③④
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。			
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①交流研修(学校→園)※	①情報交換(コロナ禍での学校・園の様子等)		④保育参観
園児の学校体験	②交流演奏会※ ③校内見学・体育館でのボール遊び体験	①校庭探索・ミニ授業 ②校庭探索 ③同上 ①学校内探検※ ②同上 ③同上	①校庭探索※	①図書活動・校内見学後、園児が学校マップ作り ③同上 ②図書活動・校内見学 ④図書活動・校長講話・校内見学授業見学
子どもの交流			①小学生が作成した学校ガイドブックを校長が届ける：園児からお礼の手紙を送る ②同上	
保護者支援		①入学説明会参加		②校長講話※ ④入学説明会参加※
その他		①子ども同士の近隣園交流 ②同上 ③同上	③職員の近隣園(上沼田保)保育参観(大空と大地のなーさりい扇大橋園)	

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、子どもの交流や給食体験は行わなかった。 ・職員の交流も一部の学校と幼稚園・保育園の管理職が顔を合わせるに留まった。
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <p>昨年度は③静かに話を聞く。④授業中立ち歩かない。⑤給食を時間内に食べる。の項目が区の平均以下であったので、以下の事を重点に指導したが、今年度も課題として残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確に子どもにもたせるための工夫。 ・一つ一つの学習の区切りをしっかりと付けさせ、次の動きにつなげる。 ・子どもが集中して取り組む環境作り。
<p>(3) 「あだち幼保小連携接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案簿の活用が定着してきた。冊子や週案など、接続期への間口は広がっているが、まだ低学年担当が活用するレベルなので、全教員により広めたい。 ・本冊子配布が新年度なので、他区からの異動者や新採への意識付けが難しい。

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1 (1) (2) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <p>(1) に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めの打ち合わせができなかった。予定通り体験活動や職員交流が行えることを祈る。 <p>(2) に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードを活用し、ねらいを明確にする授業を展開する。さらに、授業の終わりに振り返る時間を確保して、その時間で学んだことを確認し、学習の区切りを付けさせる。 ・教室環境で、掲示物を整理し、特に黒板周りの掲示物を減らす。また、机上に置く物を確認して、子どもの学習への集中力を維持させる。その結果、集中力が高まった。
<p>(2) 上記1 (3) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案簿の活用で、実施段階や実施時期が明確になり、指導に大変役立った。 ・「接続期カリキュラム」を理解している教員を1名は1年の担任に配置したので、初めてカリキュラムに取り組む教員も接続期の指導を充実させることができた。
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や自校1年生または自園5才児に対する取り組み）</p> <p>* コロナ禍のため、昨年度末に計画していた取り組みのほとんどができないでいた。そのような中、極力人との交流がなくてもできることを見いだして、園児の学校訪問や学校探検、校長による園への訪問などができた。そのため、5歳児には学校の一部だけでも様子を伝えることができた。</p>
<p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</p>

Ⅲ 第2ブロック

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
・これまでの取り組みから、接続期カリキュラムの活用で、児童・園児に対する手立てが明確になってきており、園・学校で共通意識をもった指導に役立っている。保護者に対する手立てを明確にすることが今後の課題であるが、今年度取り組めなかったことを、来年度の連携活動の中で明確にしていきたい。
(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
・今年度内での改善はできなかったが、例年、子どもの就学に対する意識が高まる就学時健診実施時期に、年長児の保護者を小学校に集めて保護者会を開催していたが、対象の見直しが必要である。 次年度以降は、開催時期を年度末とし、4月から年長児になる4歳児の保護者を集めて、就学前に身に付けておいてほしいことを伝える。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第3ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【西新井小学校】

担当園【本木保育園】

小学校名	西新井小学校	西新井第一小学校	興本小学校	本木小学校	寺地小学校
連携園	①西新井幼稚園 ②興野保育園 ③いづみ保育園 ④西新井教会保育園 ⑤その他	①黒田幼稚園 ②愛恵保育園にしあらい ③西新井聖華保育園 ④チェリッシュ西新井	①興本保育園 ②キッズガーデン足立興野	①足立愛育幼稚園 ②第一若草幼稚園 ③本木保育園 ④本木東保育園	①足立双葉幼稚園 ②アスク扇保育園 ③扇こころ保育園 ④キッズガーデン足立扇
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①③④	③	①②	①②③④	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。				
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	③交流研修(園→学校) ④同上			③5年生の御神楽見学(園→学校)	③授業参観
園児の学校体験	①小学校が作成した校内写真を園内に掲示 ③同上 ④模擬授業zoom ④zoom交流	③園が撮影した学校の様子のビデオを園児が視聴	①図書活動※	①校舎外観・校庭見学 ③同上 ④同上	
子どもの交流	①手紙交換 ③手紙交換・1年生から種のプレゼント ④同上	③園児が1年生に手紙を送る		①手紙交流(園児の質問に1年生が答える) ②同上 ③同上 ④同上	①1年生からしかけ絵本のプレゼント ②同上:園児がお礼の手紙を送る ③同上 ③1年生から種のプレゼント
保護者支援	①情報提供(手紙配布) ④入学説明会参加 ⑤同上(本木保)			①入学説明会情報提供及び掲示 ③入学説明会参加	
その他					

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

Ⅲ 第3ブロック

1 課題

(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none">・事前打ち合わせの時間を適切に設ける。・足立区の幼保小連携の手順・ルールを知り、交流についての打ち合わせを丁寧に行う。・園児が楽しめる活動内容を幼・保・小で話し合い、取り組み方を決める。・入学時に学習する内容を共有し、小学校生活にスムーズに入れるようにする。・園児の様子を共有し、入学時から個別の支援を充実させる。・交流をした際に、教員同士での振り返りの時間を設ける。・校庭利用なども行う。
(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none">・令和2年6月実施アンケートの調査結果では、③の「静かに話を聞くことができる。」が足立区全体と比べて0.2%低かったので、静かに話を聞かせることの工夫が必要である。・卒園してから長い時間学校に登校できなかったことで、登校が始まっても、保育園・幼稚園の感覚が抜けず、担任の話を静かに聞けない児童や座ってられない児童が例年より目立った。・休校期間に各家庭で学習したため、入学時に自分の名前をひらがなで全員書くことができた。ただし、学校で鉛筆を持つ指導をする前に誤った持ち方を身に付けてしまった児童もいた。
(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題
<ul style="list-style-type: none">・保育園側からもアプローチを丁寧に行い、積極的に交流を図る。・1年生が小学校で規律正しく行動する姿を園児に見せることが大切なので、年度初めから計画的に1年生の指導をする。・1年生と園児がもっと関わるができる遊びの内容を工夫する必要がある。・1年担任が園で研修をする際に、小学生での学習や取り組みについて共有できるようにする。・職員同士の交流の場を作りアイデアを出し合うことで幼保小連携を充実させる。・職員交流の場では、その日の振り返りや次の企画の要望などを話し合う。

2 今年度の具体的な取り組み

(1) 上記1 (1) (2) に関する具体的な取り組み内容と成果
<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none">・学校に直接来てもらうことができないので、写真・ビデオ等で学校の雰囲気伝えた。・1年生校庭体育の時間と園児での散歩の時間を合わせて、外から体育の様子を見せた。・1年生が朝顔の種と手紙のプレゼント。・ZOOMでの学習発表交流を実施。・楽しい学校生活を伝える手紙のプレゼント。園からは、お手紙のお返事。・小学校教員がお泊まり保育を参観。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・感染症対策の観点から、これまでにはない交流方法を工夫することができた。・コロナ禍でも、できる範囲の交流活動を行うことで課題解決に努めることができた。

<p>(2) 上記1 (3) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の学習内容や園での具体的な活動内容について確認した。 ・小学校教員は、小学校教育の部分を一読するだけでなく、幼児教育の内容もしっかり読んで幼保小の連携の繋がりを把握する。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携している園の方々一堂に会したことで、学校と園のつながりだけでなく園同士のつながりも深まった。また、園によって活動に差違があることを確認できた。 ・互いの教育内容を把握して、幼保小の接続が円滑にいくように努めることができた。
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携校園の教員同士が集まり、コロナ禍でもできる取り組みについて話し合い、打ち合わせの時間を確保することで、様々な交流を実施することができた。 ・1年生の生活や学校での活動を伝えられて、1年生が2年生になるという意識付けと、5歳児の進学に向けての意識付けに良かった。
<p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> ・無</p>

3 来年度の課題と取り組み方針

<p>(1) 上記2 (1) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできるような交流の仕方や、出来ることを増やしていけるように検討する。 ・連携校園ごとに、計画的に交流の場を設ける。 ・アンケート結果から「えんぴつの持ち方指導」を充実させる必要があるので改善する。
<p>(2) 上記2 (2) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続期カリキュラムをよく読み合い、交流する保育園・幼稚園・小学校の子供の実態に合った指導を行う必要がある。担当者は内容の理解に努め、カリキュラムの活用推進を図っていく。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第4ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【栗原小学校】

担当園【梅田保育園】

小学校名	関原小学校	梅島小学校	梅島第一小学校
連携園	①専念寺幼稚園 ②橘幼稚園 ③足立ひまわり保育園 ④たんぼぼ保育所 西新井南園	①梅島幼稚園 ②うめだ「子供の家」 ③エーワン梅島保育園 ④日生梅島保育園ひびき ⑤日生梅島第二保育園 ひびき ⑥バンビ保育園梅島園	①こだま幼稚園 ②島根保育園 ③にじいろ保育園梅島
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	②③④	①②③④⑤⑥	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	③交流研修(園→学校)※ ④同上 ③交流研修(学校→園)※ ④授業参観※	①小学校が作成した学校 紹介DVDを担当が視聴 ①授業参観 ②交流研修(園→学校)※ ⑤同上 ④交流研修(園→学校) ②交流研修(学校→園) ③同上 ⑤同上 ②授業参観※ ⑥保育参観	①交流研修・授業参観※
園児の学校体験	②学校体験※ ③zoom交流 ③図書活動※	②図書活動※ ②1年担任と園児の交流※ ③校内見学・学校紹介ビデオ視聴 ⑥同上 ④模擬授業※ ⑤同上 ④展覧会見学 ⑤同上 ⑥同上 ④校内見学※ ⑤同上	①模擬授業・図書活動※ ②図書活動 ③同上 ②音楽会見学※
子どもの交流		②入学説明会用視覚教材 を園児が視聴	②サマーフェスタ※
保護者支援	②情報提供(学校だより を園保護者へ配布)		①入学説明会参加※
その他			

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第4ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【栗原小学校】

担当園【梅田保育園】

小学校名	梅島第二小学校	島根小学校	亀田小学校	栗原小学校
連携園	①八千代幼稚園 ②梅田保育園 ③親隣館保育園	①栗原つくし保育園 ②島根いちい保育園	①中部ひまわり保育園	①満願寺幼稚園 ②西新井きらきら保育園 ③西新井きらきら第二保育園 ④ちやいれつく西新井駅前保育園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③	①②	①	①②③④
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。			
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①情報提供 (園→学校) ①授業参観※		①交流研修 (園→学校)	
園児の学校体験	①学校探検※ ②図書活動※ ②校内見学※	①図書活動	①展覧会見学※	④図書活動※ ②校庭探索 ③同上 ④同上
子どもの交流	①1年生が作成した学校紹介(写真と説明)を園児が見て質問を送る :1年生が答えを送る ②同上 ③同上	①1年生が作成した遊具(ぶんぶんゴマ等)で園児が遊ぶ		②小学校が作成した学校紹介DVDを園児が視聴 ③同上 ④同上
保護者支援		②連携以外(保木間小)の学校だよりを配布(毎月)		
その他				

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

Ⅲ 第4ブロック

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の際レク遊びだけでなく授業体験、図書室体験、校庭体験等を入れていく。 ・行事だけでなく学校公開等も活用していく。 ・連携園が多く、連絡調整が難しい。 ・低学年以外でも接続期カリキュラム、スタートカリキュラムを知る機会を作る。
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休業期間中に課題（平仮名、片仮名の読み書き等）に対し家庭での取組の差が大きかった。 ・マスクのため口形の意識が低く、口をしっかりと開けて話をしないため聞き取りにくい。 ・家庭に長期間いたことから、家族と離れるのが難しい児童が例年より多くいた。 ・分散登校中は、交流の場が少なく、「学校が思ったところと違う。」と感じている家庭あり。コロナ禍でもできる、エンカウンターなどの工夫が必要である。 ・体力の低下。疲れやすい。生活習慣の乱れから朝起きられずに遅刻する子が多い。 ・分散登校は負担も大きかったが、指導を徹底するには目が行き届きやすく、有効であった。 ・鉛筆が正しく持てないのは、持つ力が弱いことも関係していると思われる。園でスプーンの持ち方から指導することで、正しく持てる児童が増えるのではないか。 ・食器を持って食べる、手を添えながら食べることに課題がある。家庭での指導も必要。
<p>(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、入学してからの成長を直接園の先生に見てもらえる機会が設定できなかった。 ・分散登校ため、活用しづらかった学校、ほとんど活用できない学校があった。 ・1年担任のみ、または一部の教員しか把握していない傾向がある学校がある。 ・項目が多いためわかりづらい。概要版のようなA3見開き一枚の資料があるとよい。

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箸の持ち方に課題があったので、実際に箸を持ち練習し正しく箸を使おうとする意識がもてた。 ・少人数での学校訪問、展覧会参観、短時間の保育園見学等、感染症に配慮し活動できた(1校) ・今年度にZoomを活用した子供の交流を実施。(1校) ・学校紹介DVDを作成、プレゼントを作成した学校があった。(2校) ・図書室体験を実施した学校(3校)
<p>(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣<生活を自らつくる>の取組で、プログラミング学習を取り入れ、朝の身支度の順番を自分で考え実際に行動した。自ら進んで一定時間内にできるようになった。 ・1年担任の中で共通指導できるようにし、4月期の週案計画で学年統一を図った。 ・今年度中に連携園職員による小学校見学が実施できるよう協議中。 ・週案を作成する時に接続カリキュラムを活用し、園からのスムーズな移行を意識した。
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点(幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が学校紹介ポスターを作成配布。園からは、知りたいことを伝えてもらった。 ・幼稚園保育園生に向けた動画づくりを通して新入生への思いを考えることができた。 ・新1年生を想像しながら、余裕をもって発表や作成の準備等に丁寧に取り組んだ。 ・生活科や道徳、社会科などの教科の学習と関連付けた中で作成や発表が行えた。 ・図書室体験をしたことで、本を読むだけでなく、学校の施設を見学する機会にもなった。 <p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 有2・無5</p>

3 来年度の課題と取り組み方針

<p>(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <p>①今年度の取組やアンケート結果を踏まえた「来年度に向けた課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での交流のあり方、交流の仕方、間接的にでも深い交流ができる工夫 ・箸の持ち方や鉛筆の持ち方、姿勢よく座り、集中して話を聞くこと ・社会状況を考えできるだけ範囲でできることを考え、無理をせず取り組みたい。 <p>②①に対して、「来年度の取り組みたい内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保がグループごとに分かれての連絡調整及び訪問。 ・幼保小間で日常動画や授業風景の動画などの公開、質問や作品のやり取り。 ・校庭や体育館遊び、簡単なおもちゃを作ってプレゼント。学校紹介DVDの作成。 ・図書室開放。読み聞かせ。低学年の児童と園児とのレクリエーション ・学校公開中の授業参観 ・鉛筆の持ち方や食事のマナー等、保護者会やおたより等で家庭に学校での取組を発信。
<p>(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <p>①「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心して移行できるよう接続期に必要なカリキュラムを理解し個に応じた指導をする。 ・他の学年担任の教員（特に1年担任をしたことのない教員）は内容や活用方法がわからない。 <p>学校全体にカリキュラムの浸透ができるよう、若手研修などから広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の早い時期に保育園や幼稚園と連携し、指導していくとよい。 <p>②①に対して、「来年度取り組みたい内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年以外でも接続期カリキュラムを知る機会を作る。(若手研修、OJT研修など) ・職員同士の交流 ・年度初め、週案を作成する時に学年でスタートカリキュラムの内容を確認する。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第5ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【弘道第一小学校】

担当園【中央本町保育園】

小学校名	足立小学校	弥生小学校	弘道小学校	弘道第一小学校
連携園	①春光幼稚園 ②高和保育園 ③五反野保育園 ④子ひばり保育園	①城北幼稚園 ②中央本町保育園 ③足立梅島雲母保育園 ④足立さくらんぼ保育園 ⑤やよい保育園 ⑥ばる★キッズ足立	①弘道幼稚園 ②五反野幼稚園 ③西綾瀬りりおっこ保育園	①のぞみ幼稚園 ②聖華こうどう保育園 ③トレジャーキッズあやせ保育園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④	①②③④⑤⑥	①②③	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。			
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	②交流研修 (園→学校)※ ④同上 ②交流研修 (学校→園)※ ④同上 ③作品展見学 (園→学校)	①授業参観 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ⑥同上	③交流研修 (園→学校)※ ③保育参観※ ③授業参観※	①交流研修 (園→学校) ②同上 ②交流研修 (学校→園)※ ③同上
園児の学校体験	①図書活動 ③学校探険	②授業見学※ ③模擬授業※ ⑥同上 ④校内見学※ ⑤同上	③模擬授業※	
子どもの交流			③5年生から学校紹介の手紙をもらう※	①1年生作成のメッセージ付きプレゼントを園児がもらう ②同上
保護者支援			①小学校が令和3年度入学の保護者向け学校紹介パンフレットを作成し園が配布 ②同上 ③同上	
その他				

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、1年生だけでなく複数の学年と園児が交流を行う。行事だけでなく、通常の学校生活においても1年生と定期的に関わる。 ・今年度は、園児と1年生、職員同士の交流ができない学校があった。前年度の課題を踏まえ、来年度に繋げていく。
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返事をする、正しい姿勢で座る、話し手の方に体を向けて聞く、自分の持ち物を所定の場所にしまう、鉛筆を正しく持てるようにする。 ・ひらがなを正しい筆順で書けるようにする。
<p>(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や園での課題を共有し、小学校入学前までに行える対策を講じる。 ・特別な支援を必要とする家庭との連携を強化していく。

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に入学予定の保護者に向けて学校紹介パンフレットを作成した。学校での取り組みを紹介し、小学校生活の一部について伝えることができた。 ・1年生による園児へのメッセージ付きプレゼントを連携している幼稚園や保育園に送付した。 ・園の先生・園児の校内探検、クイズ等の交流をした。(1年教室前・図書室) ・連携保育園・幼稚園の教職員が1年生の授業を参観した。参観後に協議会を実施し、課題や今後の取り組みについて情報共有ができた。 ・学校や時期によって異なるが、幼稚園・保育園の先生、園児による学校見学や交流は、新型コロナウイルス感染症予防対策のために中止になった。
<p>(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、書類やビデオ等を活用した情報共有が中心となった。連絡を電話以外で取ることが難しかったが、子ども様子や家庭の様子を聞くことができた。校長・副校長・養護教諭・特別支援教室担当教諭・1年生担任で情報を共有していく。 ・令和2年度は、休校期間があったため、課題がある家庭について、具体的な聞き取りが不十分であり、指導する際に効果的な手立てを行えないこともあった。
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点(幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区主催の幼保小連携活動の研修会に参加した。 ・令和3年度に入学予定の保護者に学校紹介パンフレットを近隣の幼稚園・保育園に配布した学校があった。小学校での取り組み、学校の特色を保護者、地域等、外部にも知らせ、学校生活への理解を図ることができた。 ・園児が1年生の教室を廊下から見学することができた学校もあった。廊下側の窓を開け、1年は教室の中、園児は廊下で対面した。限られた活動であるが、小学校に入り、授業の様子を見られたことは良かった。 ・密を避けるために、幼稚園・保育園の教職員の授業や給食の参観は分散して行った。後日、幼稚園・保育園の教職員から園児に学校の様子を伝えてもらった。また、短時間で可能な範囲であったが、小学校の教員と幼稚園・保育園の教職員で打合せができたことも良かった。
<p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 (有)・無</p>

Ⅲ 第5ブロック

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
<ul style="list-style-type: none">・例年通り、小学校と幼稚園・保育園の連携の柱となる小学校見学や体験活動を実施していく計画を立てる。・来年度も1年生と園児とが直接交流できない場合は、早めに、教職員のための少人数での打合せ等の計画を立て、幼保小連携の取り組みや課題を共有し、入学後の対策を講じる。
(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
<ul style="list-style-type: none">・1年生には、もうすぐ2年生となり4月には新1年生を迎えるという意識をもたせ、掲示物の作成・教室整備などを行う。4月になったら、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、可能な範囲で、交流できるよう計画を見直し、実行していく。・4月以降も小学校と幼稚園・保育園が情報共有する時間を設定し、小学校での指導に活用できるようにしていく体制をつくる。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第6ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【東綾瀬小学校】

担当園【あやせ保育園】

小学校名	綾瀬小学校	東綾瀬小学校	東加平小学校
連携園	①足立白うめ幼稚園 ②あやせ保育園 ③東部若葉保育園 ④チェリッシュ綾瀬保育園 ⑤コンビプラザ綾瀬保育園	①東綾瀬保育園 ②足立若葉保育園 ③東綾瀬きらきら保育園 ④あやせババール園 ⑤恵・YOU保育園 ⑥その他	①チェリー幼稚園 ②北綾瀬聖華保育園 ③にじいろ保育園綾瀬
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④	①②③④⑤	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)		②交流研修(園→学校) ③交流研修(園→学校)※ ③情報提供(学校→園)	
園児の学校体験	③模擬授業※	②図書活動・学校探検 ③模擬授業・図書活動※	②展覧会見学※ ③同上
子どもの交流	②ビデオレター交流※ ②手紙交流※ ④同上	①小学校が作成した学校紹介のDVDを園児が視聴 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ⑥同上(足立白うめ幼)(あやせ保)(北綾瀬聖華保) ④手紙交流	②小学校が作成したビデオレターを園児が視聴 ③同上
保護者支援	④入学説明会参加※	③情報提供(学校→園)	
その他		①東綾瀬小養護教諭と看護師の意見交換会※ ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上	

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第6ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【東綾瀬小学校】

担当園【あやせ保育園】

小学校名	東洲江小学校	北三谷小学校	大谷田小学校	長門小学校
連携園	①東保育園 ②聖母のさゆり 保育園 ③ソラストあだち 東和保育園 ④チェリー保育園 ⑤どんぐり保育園 東和	①親愛幼稚園 ②美松学園幼稚園 ③東和保育園 ④ビーフェア東和 親水保育園 ⑤その他	①聖フランシスコ 幼稚園 ②隅田学園	①隅田学園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④	①②③④	①②	①
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。			
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)				
園児の学校体験	①展覧会見学※ ②同上 ③同上	①小学校が作成した 学校紹介のDVDを 園児が視聴 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上(聖フランシ スコ幼)		
子どもの交流			①小学校の生活・ 行事等の質問 (園→学校)	
保護者支援				
その他				

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の対面での幼保小連携ブロック会議を実施できないため、幼保からの入学予定者の聞き取りの時間を確保することが難しかった。学校によっては、養護教諭が各園に電話をして、聞き取るところもあると伝え聞いたが、かなり負担が大きい。
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鉛筆を正しく持つ」「姿勢よく座る」「食器を持ったり、手を添えたりしながら食べる」の項目の達成率が、他の項目に比べて低い。 ・会話を求める児童が多い。また、会話の時に目が合わない児童が多い。さらに、姿勢の保持ができない児童が多い。 ・新年度2か月の休校期間で、各家庭における学習や生活面での取り組み方の差が大きく出たように感じる。ひらがな練習の宿題を出したが、誤った書き順で覚えてしまっている児童が少なからずいた。 ・遊び、運動経験の不足による体力の低下が見られた。
<p>(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あだち幼保小接続期カリキュラム」を各園、各校で読み込み理解を深めると同時に、幼稚園教諭及び保育園保育士、そして小学校教諭のそれぞれがお互いのカリキュラムを理解した上で指導を行うことが課題である。 ・小学校において、1年生担任または1年生担任経験者はこのカリキュラムを知っているが、他の教職員へ周知することも必要である。

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの学習の際に、誤った書き順の修正、正しい書き順の指導を丁寧に行った。 ・鉛筆の誤った持ち方がかなり定着してしまっていたため、持ち方指導を繰り返し行った。 ・正しい姿勢を意識できるように、「座って話を聞くときの姿勢」「書くときの姿勢」「音読をするときの姿勢」など、場面ごとに正しい姿勢を示したり、リズムカルな合言葉を子供たちと一緒に繰り返し唱えたりした。姿勢への意識は高まってきているが、持続させることはまだ難しい。 ・体幹の弱さが姿勢保持能力の低さにつながっているため、体育の授業において、体幹を鍛える運動を取り入れた。 ・入学前に各幼稚園や保育園から電話等で園児の様子を聞き取り、入学後の指導に生かしていくようにした。また、保育園及び幼稚園に学校紹介をするため、映像にて伝えようとしたが、校内での編集上での問題があり、実施できた学校は少なかった。 ・朝の健康観察カード提出時に一人一人丁寧に顔を見て受付をしていた。また、下校時に出入口で一人一人見送るようにした。その結果、目が合わない子が少なくなった。 ・授業開始や終了時または授業中に、声をかけるなどして、背筋を伸ばすように指導した。姿勢を意識する児童が増えてきた。 ・保護者に登校時付き添ってもらった。
--

Ⅲ 第6ブロック

<p>(2) 上記1 (3) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にどの場面、学習活動で取り組むのかを確かめ、計画的に行うことができた。 ・7月末に行われた「幼保小接続期教育研修」により、幼稚園及び保育園でのカリキュラムの理解が深まり、幼稚園や保育園との接続を意識した指導を行うことができた。
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に少人数対面で行ったブロック会議では、各校・各園の状況について時間をかけて情報交換することができ、大変有意義であった。 ・小学校入門期における、鉛筆の持ち方の動画を見たり、文字指導のマス部屋の番号などを提示したりして、小学校における文字指導の方法について確認を行った。 ・子供同士の直接交流ができなかったため、1年生が、学校生活の紹介DVD(15分程度)を作成し、各園に送った。動画の作成に際しては、事前に各園の年長児から質問を受けて反映させたり、動画を視聴した園児からの質問に答えるなど、コロナ禍ならではの工夫を行った。 ・コロナ禍により、例年のような連携活動を行うことができなかった。
<p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/>有・無</p>

3 来年度の課題と取り組み方針

<p>(1) 上記2 (1) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったことやトラブルが起きたときに、自分の気持ちを言葉で伝えることができるように、大人が先回りして矢継ぎ早に質問したり声掛けしたりするのではなく、子供から言葉を引き出しながら、言葉をつなぎ、補っていくようにする。 ・姿勢保持のための活動（合い言葉、体幹を鍛える運動等）を多く取り入れる。 ・年長児との直接交流はまだ難しいかもしれないが、今年度と同じように、年長児が小学校生活に期待をもてるような交流を工夫する。 ・コロナ禍の中で、入学してくる園児一人一人の状態を的確に把握するための情報交換の方法をどうするかが課題である。 ・職員、児童園児の交流、合同研修を行っていく予定であるが、コロナウィルス感染症の状況によっては難しい。
<p>(2) 上記2 (2) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にどの場面、学習活動で取り組むのかを確かめ、週案へ記入し、計画的に行う。 ・情報交換（保育士による小学校参観、小学校教員による保育園参観）を通して、できるだけ園児一人一人の課題を的確に把握し、接続期カリキュラムを活用して、円滑な学校生活を送れるように配慮する。 ・コロナ禍の中、「接続期カリキュラム」に合わせた指導をどのように実現していくかが課題である。現時点では「あだち幼保小接続期カリキュラム」を用いて、内容理解を十分に行うことが必要である。それにより、具体的な指導内容について方針を立てていく。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第7ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【中川北小学校】

担当園【大谷田第一保育園】

小学校名	中川小学校	中川北小学校	辰沼小学校	中川東小学校	六木小学校
連携園	①大谷田第一保育園 ②チェリッシュ北綾瀬 ③足立北綾瀬雲母保育園	①六木保育園	①辰沼保育園 ②きたあやせこころ保育園 ③未来っ子保育園北加平町園 ④チェリッシュやなか保育園	①おおやたこども園 ②ナーサリースクール いずみ大谷田	①六木幼稚園 ②神明町保育園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③	①	①②③④	①②	①②
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。				
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)			①情報交換 ①交流研修(学校→園) ②交流研修(園→学校)※ ①授業参観 ②授業参観※ ①校長と園長の意見交換 ①運動発表会参観 ②同上	①交流研修(園→学校) ②同上 ①保育参観 ①授業参観 ②交流研修(学校→園)	
園児の学校体験	①ミニ授業 ②ミニ授業※ ③同上 ①体育の授業見学※ ②校内見学※ ③同上	①授業・避難訓練見学 ①図書活動	①学校探検※ ②同上	①学校探検・体育館利用	②小学校が作成したビデオを園児が視聴
子どもの交流		①学校紹介ビデオ視聴※			
保護者支援		①入学に向けての資料配布	①保護者会にて1年生時程表・1年生担任からの手紙配布	①入学説明会参加 ①保護者会参加(学校→園)※	①入学に関する情報提供(学校→園)
その他	①近隣園園児交流※ ②同上 ③同上		①施設長意見交換 ②同上 ③同上 ①近隣園園児交流 ④同上		

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

Ⅲ 第7ブロック

1 課題

(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none">・ 入学後の個人差（学力・生活面）が大きく差がなかなかうめられない。・ 保護者に理解してもらいにくい。
(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校入学式実施後の2か月間に及ぶ休校措置の影響は大きかった。従来の自然な形の接続とならず家庭での自宅待機が長期にわたったため、各家庭の教育意識の格差が6月以降の新入児童の円滑な学校生活・学習姿勢の定着についての明確な差異を生じさせた。
(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍でできる幼保小連携の具体的な進め方を考えていく必要がある。・ 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用では、小学1年生スタートカリキュラの運用を各学校で更に定着させていく。本年度の様に保育園・幼稚園から入学までの期間に休業措置等があった場合、各項目内容の定着が家庭での待機期間により低くなっている状況も考えられる。各小学校で状況を共有しながら必要な対応を図っていく必要がある。

2 今年度の具体的な取り組み

(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果
<ul style="list-style-type: none">・ 保護者会の時に図や写真などを使って分かりやすく説明して家庭でも意識していけるようにする。・ 保育園の年長組の保護者会に小学校の管理職や1年生担任が参加し、「入学までに身に付けたこと」を基本とした「小学校入学に向けて」の話をする・ 公開保育時に参観のポイントを示し、視点をもって見るために、アンケートの設問を工夫したり「あだち幼保小接続期カリキュラム」の該当項目をコピーして配布したりする。
(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果
<ul style="list-style-type: none">・ 上記に記入した通り取り組みについての予定であったが、新型コロナウイルス拡大防止のための小学校休校期間と重なったことにより、各園年長組の保護者会への小学校管理、1年生担任参加は未実施となった。各園で保護者会または、家庭への通知によりお知らせした。また公開保育についても同様。
(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍により従来の施設長会議が開催できずブロック全体としての連携や情報の共有の機会に乏しかった。・ ブロック内の連携校・園相互の取り組みとなったが、それぞれで工夫して可能な連携を進めることができた。（小学校の施設見学・ビデオによる小学校生活の紹介・校庭での体育授業の見学など）
交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針

- ・就学前施設がさらに増える中、幼保小連携・交流が重要となる。接続期を中心とした幼保小連携活動を縦だけでなく、横のつながりにも活かし、教育・保育の質の向上をめざす。
- ・コロナ禍の社会状況下であることを考慮し年2回の施設長会議を工夫して実施する。具体的な取り組み状況を報告し合い、各グループの気づきや成果を共有して、ブロック全体としての連携の推進につなげる。
- ・家庭で取り組んでほしいことについて、保護者会やお便りなどで知らせていく。

(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針

- ・保育園の年長組の保護者会に小学校の管理職や1年生担任が参加については新型コロナウイルス対応の状況に鑑み対応を考えていく。「入学までに身に付けたいこと」を基本とした「小学校入学に向けて」の内容について保護者への周知・理解を工夫して進める。
- ・公開保育時に参観のポイントを示し、視点をもって見るために、アンケートの設問を工夫したり「あだち幼保小接続期カリキュラム」の該当項目をコピーして配布したりする。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第8ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【栗島小学校】

担当園【平野保育園】

小学校名	栗島小学校	加平小学校	東栗原小学校	平野小学校	青井小学校
連携園	①栗島幼稚園	①あおい幼稚園 ②たんぼぼ 保育所六町園 ③たんぼぼ 保育所 第二六町園 ④野のはな 保育園 ⑤六町駅前 保育園	①明日葉保育園 保塚園 ②クレア ナーサリー 足立さくら園 ③東栗原保育園	①足立つくし 幼稚園 ②平野保育園	①あい・あい 保育園綾瀬 六丁目園 ②青井保育園 ③明日葉保育園 青井園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①	①②③④⑤	①②③	①②	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。				
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①交流研修 (学校→園) ①交流研修 (園→学校) ①展覧会見学 ①保育参観※			②展覧会見学	
園児の学校体験	①小学校が作成 した学校紹介 DVDを園児が 視聴	①小学校が作成 した学校紹介 DVDを園児が 視聴 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ②展覧会見学 ③同上	①小学校が作成 した学校紹介 DVDを園児が 視聴 ②同上 ③同上 ①展覧会見学 ②同上 ③同上	①小学校が作成 した学校紹介 DVDを園児が 視聴 ②同上 ②校舎外観・校 庭見学	①小学校が作成 した学校紹介 DVDを園児が 視聴 ②同上 ③同上 ②年長組発表会 DVD送付 ②学校周辺散策
子どもの交流					
保護者支援	①入学説明会 参加			②入学説明会 参加	
その他					

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の持ち方、箸の持ち方、姿勢保持、衣服の着脱、畳む、身の回りの整理整頓、時間を守る
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学式以降に休校となってしまう、学校での生活や学習面に慣れるか不安な児童がいた。 臨時休業や分散登校による生活リズムの乱れ
<p>(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により「他者との関わりに関すること」における指導のポイントについて、取り組めない内容が多かった。チェックリストは活用した。

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1 (1) (2) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での児童の学習や生活の様子をCDにまとめ、連携園と情報共有する。 1年担任と管理職が連携園にCDを届けに行き、交流を図った。 現1年生、新1年生となる5歳児の園での様子を聞き取りクラス編成の参考とした。 ひらがなの読み書きは、休校明けに授業で重点的に指導した。 少しずつ児童間で解決ができるように、支援した。
<p>(2) 上記1 (3) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡をこまめにとるとともに、卒園した幼稚園、保育園に情報を求め、対応の仕方についてアドバイスをもらった。 学校生活がわかるような映像を撮影し、幼稚園・保育園に配布した。
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生のスタートにおいては分散による3分割での登校が3週間あったため、少人数の児童に対して、担任と専科教員で、きめ細かい指導ができた。 交流が難しかったため、学校生活を映像としておさめ、ビデオとして配布した。
<p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 (有)・無</p>

3 来年度の課題と取り組み方針

<p>(1) 上記2 (1) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度は、園児との交流給食や学校行事への参加、保育士と教員の交流研修等が、対面で実施していきたい。
<p>(2) 上記2 (2) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 座り方（グーペタピン）、姿勢保持の指導にあたって、体幹を鍛える必要がある。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第9ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【花畑第一小学校】

担当園【東花畑保育園】

小学校名	花畑小学校	花畑第一小学校	花畑西小学校	桜花小学校	花保小学校
連携園	①六町あづま保育園	①東花畑保育園	①杉の子幼稚園 ②レイモンド花畑保育園	①花畑八千代幼稚園 ②花畑桑袋保育園	①石鍋幼稚園 ②南保木間保育園 ③愛隣保育園 ④東保木間保育園 ⑤六町保育園 ⑥その他
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①	①	①②	①②	②③⑤⑥
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。				
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①校長来園	①交流研修 (園→学校)※	①動画撮影※ ②ZOOM交流・意見交換※	①授業参観※ ②授業参観(ビデオ活用) ②保育参観(ビデオ活用)	②交流研修 (園→学校)※ (学校→園)※ ③展覧会見学 ⑥同上 (杉の子)
園児の学校体験	①展覧会見学※	①小学校が作成した学校紹介のDVDを園児が視聴	①模擬授業※	②模擬授業 (学校→園) ②展覧会見学・学校探検・図書室利用	②展覧会見学 ⑤同上 ⑥同上 (六町駅前保) ③図書室利用※ ⑥同上 (六町駅前保) ⑥小学校が作成した学校紹介DVDを園児が視聴(杉の子)(六町駅前保)
子どもの交流			①小学生からメダルのプレゼント ②小学校から種のプレゼント		⑥小学生からメダルのプレゼント (杉の子)
保護者支援		①入学説明会資料送付 (学校→園)	②学校だより配布	①入学説明会周知文配布 ②同上 ②入学説明会参加	②校長講話※
その他					

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <p>○連携校ごとに校長・園長間で昨年度の課題を見直し、「あだち幼保小接続期カリキュラム」の内容で重点項目を決め、各校園で取り組むこととした。</p> <p>○「基本的生活習慣の定着」「挨拶」「話の聴き方や話し方」「姿勢の保持」「学びに向かう姿勢」「鉛筆の持ち方」「説明を聞いて行動する習慣」などを共有課題とし、指導に取り組んだ。</p>
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <p>○登校しぶりが多く見られると想定していたが、それほどでもなく安心した。</p> <p>○例年より身に付いていないと感じるものはなく、分散登校中は少人数だったため、カリキュラムに合った指導を丁寧に行うことができた。</p> <p>○挨拶や返事をしっかりしようとする姿から、児童が学校再開を楽しみにしていたことを感じる事ができた。</p> <p>○姿勢を保てない、鉛筆を正しく持てないなど、入学後すぐに押さえておきたい指導の定着に時間を要した。</p> <p>○家庭において学習を進めていた子どもと家庭の協力が難しかった子との学力差が見られた。</p> <p>○園ルールから学校ルールと変わるが、今年度は分散登校等で一斉の指導の徹底が難しかった。</p> <p>○外遊びや体育の学習の機会・経験が十分でなく、次年度への課題となった。</p> <p>○確認項目が「身に付いている」「身に付いていない」だけでなく、「概ね身に付いている」「声掛けが必要」等の中間的な基準や、1ヶ月後、2ヶ月後等の継続的な確認ができるとよい。</p>
<p>(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <p>○カリキュラムの指導内容を確認することで、学年で共通理解し指導を進めることができた。</p> <p>○週案には、記号を書くスペースが少なく、記号だと指導内容が分からなくなってしまうことがあった。週案簿への記録スペースの確保や工夫が必要である。</p> <p>○1年生後期に、基本的なことができるようになってきているか、見直しが必要である。</p>

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1 (1) (2) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <p>○ビデオでの園と学校の実践交流を通して指導の連続性について研修を深めることができた。</p> <p>○保育士による小学校の授業参観や小学校の教員による保育園での授業を通して園児や児童の状況を把握し接続期の指導の在り方について学ぶことができた。</p> <p>○連携園と連絡会議を開いて情報交換を行い、学校で取り組んでいる活動を紹介した。</p> <p>○園児に校内施設や展覧会の見学を行うことができた。</p>
<p>(2) 上記1 (3) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <p>○初めて1年生を担当する学級担任にとって、指導内容が明確で、指導内容が確認しやすかった。</p> <p>○週案の指導項目を学年で統一し、指導内容を確認しながら取り組むことができた。</p> <p>○低学年部会での情報共有を行ったり、新規採用教員へのレクチャーに活用したりした。</p> <p>○「あだち幼保小接続期カリキュラム」をもとに校内で接続期の指導についての研修会を行った。</p> <p>○連携園の園長と小学校長が園と小学校の接続期の指導について情報交換と打合せを行った。</p>

Ⅲ 第9ブロック

<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）</p>
<p>○ビデオで園と学校の実践交流を行い、互いの課題や改善点などを明確にすることができた。</p> <p>○1年生が作成した学校生活DVDと入学説明会資料を近隣園に配布した。</p> <p>○学校全体で取り組んでいる活動を保育園や幼稚園に紹介することができた。併せて「自分を好きになる活動」、「自己肯定感を高める活動」を、保育園や幼稚園でも取り組んでいる。</p>
<p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 ④・無</p>

3 来年度の課題と取り組み方針

<p>(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p>
<p>○「あだち幼保小接続期カリキュラム」の趣旨を踏まえた交流学习の計画と実施</p> <p>○ICT機器を活用した連携園と小学校の交流の促進</p> <p>○心の教育の充実をより一層はかり、自信をもつての小学校入学になるようにする。</p> <p>○合言葉や掲示物、場の設定などから学習規律が身に付けられるように環境を整備する。</p>
<p>(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p>
<p>○新型コロナウイルス対策を講じた交流活動（園児・児童）</p> <p>○「あだち幼保小接続期カリキュラム」の指導における重点項目の明確化と取組</p> <p>○指導した内容を学年で確認し、統一感のある指導を定着させる。</p> <p>○校内で他学年へ周知し、研修時間を設ける。（1，2年担任以外）</p> <p>○「姿勢を保つ」ことから「よい姿勢を保つ」ことの実現に向けて、縄跳びや走ることなど運動を積極的に学校生活に取り入れ、筋肉や体幹の発達に努めていきたい。</p>

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第10ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【西保木間小学校】

担当園【保木間保育園】

小学校名	中島根小学校	渚江小学校	渚江第一小学校
連携園	①中島根保育園	①竹塚幼稚園 ②竹の塚北保育園	①小倉幼稚園 ②北保木間保育園 ③保木間保育園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①	①②	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①園で撮影したビデオ を教員が視聴	①交流研修(園→学校) ②同上 ③授業参観	①学習発表会参観 ②同上 ③同上
園児の学校体験	①学校の畑でさつま芋 栽培体験	①展覧会見学 ②同上	①読み聞かせ・校庭見学※ ③同上 ②校庭見学※ ③園が学習発表会の動画を撮 影し園児が視聴
子どもの交流		①園から1年生へ質問: 1年生が回答 ②同上	①1年生との交流※
保護者支援	①入学説明会参加	②校長作成資料を保護者に 配布	②保護者会参加 (学校→園)※ ③同上 ③入学説明会参加 ③保護者会参加 (学校→園)※
その他	①小学校の学年便り・ 園のクラス便りの共 有	①園で動画を作成し小学校 に送付	

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第10ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【西保木間小学校】

担当園【保木間保育園】

小学校名	西保木間小学校	保木間小学校	竹の塚小学校
連携園	①西保木間保育園 ②水神橋保育園	①竹の塚保育園 ②その他	①ふちえ幼稚園 ②湊江保育園 ③ちやいれっく 竹ノ塚駅前保育園 ④保育園ミルキーウェイ 竹の塚
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②	①②	①②③④
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①交流研修(園→学校)※ ②同上 ①情報交換(校長・1年生 担任・園長・5歳児担 任) ②交流研修(学校→園)※	①情報交換 ②同上(ふちえ幼)	①交流研修(園→学校) ①交流研修(学校→園)※ ②学校探検 ②交流研修※
園児の学校体験	①学校が作成したビデオ レターを園児が視聴 ②同上 ①校庭探索 ②校内見学	①学校が作成したビデオ レターを園児が視聴：お 礼の手紙を送る	①園が撮影した小学校の写 真を園児に紹介・説明 ③同上
子どもの交流		②5年生が5歳児に楽器 の演奏の動画と磁石を プレゼント(ふちえ幼)	①ZOOMで交流 ②小学校の写真を送付：手 紙(園児の質問)とプレゼ ント送付 ②ビデオ交流 ④手紙交流
保護者支援	①校長講話※ ②入学に関する資料配布		
その他			

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

1 課題

(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題
・「あだち接続期カリキュラム」の3つの柱について、小学校と園の両方が内容の理解を深め、より実践的な方策を連携園の実態に則して構築し、学校・園における育ってほしい姿の具現化を図り、円滑な接続ができるようにする。
(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題
・様々な制限下にあるため、精神的に不安定な状況がある。 ・4, 5月の年度初めに、身に付けさせたい基本的な生活習慣などの定着が9月以降にずれ込むことになった。
(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題
・今年度はコロナ禍において、本来の取り組むべき時期と大きくずれてしまったため、活用の課題等を検証することが難しい。制限がある中で、円滑な接続にするためには基本の形を柔軟に捉えなおし、「コロナ禍における接続期カリキュラム」を考える必要がある。

2 今年度の具体的な取り組み

(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果
・年度初めに担当の園長と校長が電話で今年度の方向性を話し合った結果、小学校の方で「10の姿」から取り組むものを選定し、研究主題にした。それを、各園、校に周知した。
(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果
・「基本的な生活習慣の確立～学びに向かう姿勢～」を研究の主題と位置づけ、実際には各連携する学校・園の実態に合わせて、活動内容を考える事とした。
(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）
・様々な制限下の中でも、感染拡大リスクに十分配慮をした方法で、小学校と園との交流を進めることができた。 ・学校の展覧会や集会などの行事に密を避けた方法で参観 ・ZOOM、ビデオレターなどのICTを活用した新しい交流の形式の確立 ・従前より行ってきた、手紙のやり取りという形式は安定的に継続できる事
交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
・「あだち幼保小接続期カリキュラム」を全教職員が内容を理解し、各校・園で有効に活用できるようにしていく。と同時に、触れ合いや・交流・話し合いなどに制限がある中でどのように形を変えたり、工夫したりできるかについて考える必要がある。
(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
・コロナ禍による影響が複数年度にまたがり継続している中で、今回で2回目の年度末・年度初め重要な接続期が特別な状況になっている事を受け、従来の形式にとらわれず、児童・園児の実態に則した方法を新たに考えて、迅速かつ柔軟に実施する必要がある。

Ⅲ 第11ブロック

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第11ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【栗原北小学校】

担当園【伊興保育園】

小学校名	西新井第二小学校	西伊興小学校	栗原北小学校	伊興小学校	東伊興小学校
連携園	①iー保育園 ②アスク西新井保育園 ③清水保育園 ④西新井保育園	①佐藤幼稚園 ②ういず西新井保育園	①はなぞの幼稚園 ②伊興大境保育園 ③くりはら愛育保育園 ④たんぼぼ保育所 竹の塚園	①福寿院幼稚園 ②伊興保育園	①本行寺第二伊興幼稚園 ②伊興すみれ保育園 ③こころたけのつか保育園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④	②	①②③④	①②	①②③
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。				
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	②交流研修 (園→学校) ※ ③同上 ④同上 ②交流研修 (学校→園) ※ ④同上 ②公開授業※ ③同上 ③交流研修：資料活用 (学校→園)	②交流研修 (園→学校)	②交流研修 (園→学校) ※ ③同上 ②交流研修 (学校→園) ※ ③同上	①交流研修 (園→学校) ①交流研修 (学校→園) ②交流研修 (園→学校) ※ ②交流研修：資料活用 (学校→園)	①交流研修 (園→学校) ※ ①交流研修 (学校→園) ②同上 ②交流研修 (園→学校) ③同上 ③交流研修 (学校→園) ※
園児の学校体験	①校内見学 ①新1年生用 学校紹介YouTube を園児が視聴 ②同上 ②模擬授業※ ③同上 ④同上 ②学校周辺散策		①校庭見学・体験 ②1年生が作成した 学校紹介の紙芝居 を園児が鑑賞 ③同上 ④同上 ③校庭見学・体験※ ④同上	①園が撮影した学 校の様子のビデオ をDVDに編集 し園児が視聴 ②上記のDVDを借 用し園児が視聴 ②図書活動※ ②校庭利用※	①小学校が作成 した学校紹介 DVDを園児が 視聴 ②同上 ③同上
子どもの交流	②手紙・動画交流※ ③園児の手紙送付 ③動画交流※		①カードを使った 授業体験		
保護者支援	②入学説明会参加 ③同上 ②情報収集 (学校→園) ③同上		③情報収集や入学説 明会参加 (園→学校) ※ ③情報提供や保護者 会参加 (学校→園) ※ ④情報提供：資料 活用 (学校→園) ④情報提供や保護者 会参加 (学校→園) ※	①入学説明会参加 ※ ②入学説明会資料 活用 ②保護会参加 (学校→園) ※	
その他					

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

1 課題

(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・人の話をしっかりと聞く ・姿勢の保持（座ってられる、集中して話を聴く）
(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目で、足立区全体の数値を上回っている。今後も継続して指導を行っていく。 ・異学年や園児と交流する機会が減ったことによる、行動様式の未定着や自覚や自信の欠如。
(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・1年担任はよく理解しているが、教員全体には浸透していない。

2 今年度の具体的な取り組み

(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果
<ul style="list-style-type: none"> ・各園で指導内容に大きな変化はなかったが、今までの成果があるので、継続して指導を行った。 ・ブロック会の時に小学校から「立って靴を履けない子がいる」という実態から、5歳児には立って靴を履くように指導をしている。
(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて1年生を担当した教員にとって、大変良いひな形となった。 ・新1年生に対し、モデル週案が大変役に立った。分散登校で3日に一度の指導であったため、モデル案と同じようにはいかなかったが、指導内容等が大変参考になった。
(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）
<p>○コロナ禍であったが、工夫をして活動することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が紙芝居を作り各園に配布。 ・教室・体育館等を写真に撮り、園に送る。 ・教員や保育士が1名ずつ活動の様子を見に来る。 ・校庭の遊具体験や校舎内を見学。
交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
<p>今年度は十分に課題解決に取り組むことができなかつたため、次年度も継続して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話をしっかりと聞く ・姿勢の保持（座ってられる、集中して話を聴く）
(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止の制限の中、新しい生活様式に応じた交流を模索する。 ・1年生では有効活用されているカリキュラムを学校全体に周知する。

Ⅲ 第12ブロック

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第12ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【鹿浜第一小学校】

担当園【鹿浜こども園】

小学校名	鹿浜第一小学校	北鹿浜小学校	鹿浜西小学校
連携園	①足立このみ保育園 ②SAKURA保育園谷在家 ③谷在家保育園	①鹿浜こども園 ②太陽保育園	①鹿浜愛育幼稚園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③	①②	①
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①交流研修(園→学校)※ ①交流研修(学校→園)※ ③同上 ③情報提供(園→学校) ③展覧会見学	①交流研修(園→学校)※ ②同上 ①交流研修(学校→園)※ ②同上	①作品展準備見学 (学校→園) ①授業参観※
園児の学校体験		①図書活動※ ①校庭探索・校内探険※ ②図書活動 ②校内探険(1年生の教室 での体験含)	
子どもの交流		①金管バンド演奏会見学※	①手紙・ポスター交流※
保護者支援	①校長講話※ ③同上	①入学説明会参加 ①校長講話※ ①学校だよりの配布 ②同上	
その他		①児童が作成したコロナ感 染予防のポスター等を園 内に掲示 ②同上 ②園が作成した感染防止の 壁面装飾を送付	

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第12ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【鹿浜第一小学校】

担当園【鹿浜こども園】

小学校名	鹿浜五色桜小学校	皿沼小学校	新田学園
連携園	①江北白百合幼稚園 ②第三上沼田保育園	①加賀保育園	①新田三丁目 なかよし保育園 ②新田わかば保育園 ③ココロット保育園 ④新田保育園 ⑤新田おひさま保育園 ⑥新田さくら保育園 ⑦保育園ヴィラ・ココロット
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②	①	①②③④⑤⑥⑦
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。		
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	①保育参観 ②交流研修(学校→園) ②土曜日公開授業参観	①交流研修 (園→学校) ①授業参観 ①保育参観	
園児の学校体験	②小学校が作成したビデオレ ターを園児が視聴 ②学校の写真を園内に掲示 ②校庭探索	①校庭探索 ①模擬授業※ ①図書活動※	①小学校が作成した学校紹介動画を 園児が視聴 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ⑥同上 ⑦同上
子どもの交流			
保護者支援	②校長講話※	①校長講話 ①入学説明会参加※	①保護者に「就学についての学校 への質問」アンケート実施：学 校からの回答及び校長作成「1年 生の生活」資料を保護者に配布 ・説明 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ⑥同上 ⑦同上
その他	①2年生の園農園での収穫体験	①ごみゼロ地域清掃活動(保小 中連携活動)	①園児が学校の新グラウンドで遊ぶ・ 保育施設長会議 ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ⑥同上 ⑦同上

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須として
いません。

Ⅲ 第12ブロック

1 課題

(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none">・特に、トラブルで嫌な思いをした際に、自分の気持ちを言葉で伝え合うことができるように、担任が十分に話を聞き、言葉をつなぎ（補い）ながら、良い方向に導いていくことが必要である。同時に、自分で振り返って考えることを促すことにも意識して取り組んでいく。・交流研修などの機会を大切な学びの場と一層捉え、各園での活動が小学校ではどの学習活動にあたるのか・各園と小学校での指導法の違いなど、連続性に対する相互理解を深めていく。・小学校主導でなく、各園からのニーズを十分聞いた上での交流活動の計画・実施も行っていく。
(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none">・6月実施アンケートの結果を見ると、7項目すべて足立区全体より低い。しかし、同ブロック内では昨年に比べ、聞く姿勢は79%から81.9%と上がっている。逆に、鉛筆を正しく持つことの定着率が73%から67%と下がっている。・休校を経た後、基本的な学習態度の面では身に付くよう意識して指導できたが、鉛筆を正しく持つという経験が例年より2ヶ月が遅れたため、定着率が悪かったと思われる。
(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題
<ul style="list-style-type: none">・連携している学校・園ともに多く、ブロックとして1つの項目に特化して取り組むことには大きい困難がある。そのため今年度同様、連携グループごとで子どもの実態に応じて「重点とする項目」を決め、共通理解の上で保育活動・教育活動に取り組んでいく。・ブロック会議の際には「あだち幼保小接続期カリキュラム」を持参し、重点とした項目についての振り返り・新たな課題についての検討などを行い、より充実した連携活動に生かしていく。

2 今年度の具体的な取り組み

(1) 上記1(1)(2)に関する具体的な取り組み内容と成果
<ul style="list-style-type: none">・特別な支援が必要とされる児童への対応について、園との情報交換により学校としての具体的な取り組みの指針になった。・学習内容等カリキュラムの立て直しの参考にし、重点指導の目当てができた。定着まで根気よく指導できている。
(2) 上記1(3)に関する具体的な取り組み内容と成果
<ul style="list-style-type: none">・園長、校長間の情報交換、連携のみだったが、「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用という共通認識はできた。
(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）
<ul style="list-style-type: none">・5才児に対して、校舎内外見学の時間を設けた。1年生との交流はなし。・学校生活の1日のビデオを撮って、園に送った。
交流研修等における接続期カリキュラムの活用 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

3 来年度の課題と取り組み方針

(1) 上記2(1)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針

- ・交流研修などの機会を大切な学びの場と一層捉え、各園での活動が小学校ではどの学習活動にあたるのか・各園と小学校での指導法の違いなど、連続性に対する相互理解を深めていく。
- ・小学校主導でなく、各園からのニーズを十分聞いた上での交流活動の計画・実施も行っていく。

(2) 上記2(2)を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針

- ・連携している学校・園ともに多く、ブロックとして1つの項目に特化して取り組むことには大きい困難がある。そのため今年度同様、連携グループごとで子どもの実態に応じて「重点とする項目」を決め、共通理解の上で保育活動・教育活動に取り組んでいく。
- ・直接の交流がなくても、連携し合える形態を考えていく。

令和2年度 幼保小連携活動内容

1 第13ブロック

小学校と就学前施設の交流数や活動内容は、それぞれ異なります。

担当校【足立入谷小学校】

担当園【いりや第二保育園】

小学校名	舎人小学校	舎人第一小学校	足立入谷小学校	古千谷小学校
連携園	①足立みどり幼稚園 ②アスクとねり保育園 ③アスク舎人駅前保育園 ④聖保育園	①とねり伊藤幼稚園 ②いりや第二保育園	①いりや第一保育園 ②その他	①足立つばめ幼稚園 ②舎人幼稚園
第1回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	①②③④	①②	①	①②
第2回ブロック会議 (連携校・連携園打合せ)注	各園・各校からの文書にて成果・課題について報告書にまとめた。			
職員の交流研修・参観等 (情報提供含)	④授業参観※	②授業参観 ②保育参観※	①保育参観 ①授業参観※ ②保育参観 (足立みどり幼)	①交流研修 (学校→園) ②同上 ①情報提供 (園→学校) ②公開保育 ②公開授業※
園児の学校体験	②校庭での体育授業見学 ③同上 ④マラソン大会観覧 ④校庭探索			
子どもの交流				
保護者支援		②入学説明会参加	①校長講話※ ①入学説明会参加	
その他	①読書活動・ことば遊びの取組みについて各園で作成・ブロック内共有 ②同上 ③同上 ④同上	①読書活動・ことば遊びの取組みについて各園で作成・ブロック内共有 ②同上	①読書活動・ことば遊びの取組みについて各園で作成・ブロック内共有	①読書活動・ことば遊びの取組みについて各園で作成・ブロック内共有 ②同上 ①医療従事者への手紙作成・医療機関へ届ける ②同上

※印は、計画していたものの、新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の発令により、中止した活動を指す。

注：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、全員が一堂に会するブロック会議の開催は必須としていません。

1 課題

<p>(1) 前年度の取り組みを踏まえた課題</p> <p>「読書週間に向けての読書活動・歯科衛生の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生に関しては、実態的に課題が少なくなりつつあった。 ・読書週間に関しては、ここ数年における小1児童の言語獲得力が旺盛な傾向から見て、効果が現れていると思われる。この視点を強化して取り組んでいきたい。
<p>(2) 「小学校第1学年に関するアンケート」の結果や新型コロナウイルス感染症の影響による休校を経た子どもの姿から見えてきた課題</p> <p>どこの学校も予想以上に新1年生が素早く学校に順応できた。また、休校による影響は特段なかったが、箸の持ち方や食事の作法等の生活習慣的なしつけがまちまちであることから、これらに関する指導が学校生活スタート時に多かった。</p>
<p>(3) 「あだち幼保小接続期カリキュラム」の活用に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校とも、幼稚園や保育園における就学前活動が生きており、スムーズに小学校生活を送れる子が多くなっている。接続期カリキュラムの効果がよく現れている。

2 今年度の具体的な取り組み

<p>(1) 上記1 (1) (2) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <p>「豊かなことばの獲得をめざした読書活動・ことば遊び」全校園活動一覧</p>
<p>(2) 上記1 (3) に関する具体的な取り組み内容と成果</p> <p>すべての園・学校において、質的・量的にかなりの言葉の活動を意図して取り入れていることが分かった。ここ数年の入学生は、学校生活に順応しやすく平仮名の読み書きの修得がスムーズな傾向が見られていたが、こうした言葉の学びを各園が取り入れていることの効果が大きいと考えられる。</p>
<p>(3) 今年度の取り組みにおいて工夫した点や取り組んでみて良かった点（幼保小連携活動や、自校1年生または自園5才児に対する取り組み）</p> <p>コロナ禍のため相互に実態を見学することは不可であったが、全園・全校から言葉の活動の取組を一覧表にまとめたことは何よりの情報交換となった。この一覧表を研修資料として、各校・園でさらなる取組を開発していくことができる。</p> <p>交流研修等における接続期カリキュラムの活用 (有)</p>

3 来年度の課題と取り組み方針

<p>(1) 上記2 (1) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <p>一覧表にしたことにより全校・園の取組実態が明確になり、相互に参考にできる。各校・園とも、より工夫した活動に発展させていきたい。</p>
<p>(2) 上記2 (2) を踏まえた来年度の課題と現時点での取り組み方針</p> <p>基本的に「豊かな言葉の獲得」を主眼に置いた取り組みを発展・継続していく。読書活動等をサブテーマに内包させ、広義で「各園・各校の言語活動を活発化させる」という捉えで研究を進める。</p>

Ⅲ 第13ブロック

第13ブロック 豊かな言葉の獲得をめざした読書活動やことば遊び 一覧		
校・園名	読書活動	ことば遊びや国語の授業等
足立つばめ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・降園前に絵本や紙芝居の読み聞かせ。 ・給食後は、各自絵本を読んで待つ。 ・桃色のキリンやエルマーの冒険などの読み聞かせ ・子どもと一緒に音読 ・何かの待ち時間は絵本を読んで待つことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当番活動で、当番の名前をクイズ形式で当てる時に ・頭、おなか、お尻の文字などを黒板に書く。 ・当番の名前を使って。 ・一画目だけ書く。 ・名前に濁点を付けたり、間に違う文字を入れたりする。 ・カタカナで書く。 ・ヒントに当てはまるのは誰か考える。 ・友達の特徴を考え、ヒントを出す。 ・反対から名前を呼ぶ。 ・かるた、しりとり、あいうえおのワーク ・制作などの導入などの際、黒板を使って文字を書く。 ・歌うときに紙に書いた歌詞を見る。 ・印象画などを描いたときに裏に自分で名前を書く。 ・ワークなど名前を見て当番が配る。
足立みどり幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月各学年 年齢にあったチャイルドブックを読んでいる。 ・自由遊び中もクラスの絵本を自由に見る。 ・時間が空いた際には図書室にクラス単位で行き、自分の読みたいものを探して読む。 ・降園の際には、どのクラスも紙芝居、大型絵本、絵本などを読み聞かせしている。(別紙2) 	<ul style="list-style-type: none"> ①同じ言葉で違う意味 の言葉探し ②かるたとり ③しりとりあそび ④反対ことばと意味 ⑤文字の練習ワークなど行う際も、上記のような言葉遊びを取り入れながら実際文字を書く。 ⑥上から読んでも下から読んでも同じ言葉遊び
舎人幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日2つの物語を見る(紙芝居、絵本、パネルシアター、素話など) ・毎月2冊の絵本購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・反対ことば、回文ゲーム ・しりとり
とわり伊藤幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・登園後、自由遊びには各自、月刊誌、童話、自然観察など興味のある本を読む。 ・漢字の絵本を保育者と音読している。(漢字の絵本は教材) ・保育者はほとんど毎日読み聞かせをしている。(別紙3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のワークの教材を使用し、しりとりあそび、からだのなまえ、長い短い、高い低い。反対ことば、何をしているのかな? どんな教え方? を言葉で表現する。 ・物を文字につなげることはもちろんですが、感情や思いを文字とつなげる「ことば」としてことば遊びとしている。
いりや第一保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を週に1回(金曜日)貸出しを行っている。(自分で好きな絵本を1冊選り読書通帳に記入)・家庭での読み聞かせ・保育室に季節、図鑑、その時に子どもたちが興味を持っていることなど分けて設定したり、選びやすい場所、冊数、掲示方法を工夫した環境づくりをしている。・担任からの読み聞かせをする(ストーリーが長い絵本、全員で共感してほしい絵本、自分で見たりする時間を意識して作る。(別紙4)・毎月4.5歳向けのかがかく絵本、図鑑を購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとり、頭文字遊び、早口言葉、反対ことば、なぞなぞ ・ホワイトボードの活用(カレンダーの表示、日時、遊び、話し合いの決まったことを文字で書いたり、読んだりする) ・カルタ作り ・お手紙ごっこ・行事の案内状づくり ・発表会表現遊び(ストーリー作り、書いて読む、合奏の楽譜づくり(音符) ・グループ、クラスでの話し合い(考えたこと、感じたこと、相手にわかるように話したり、相手の話を聞く) ・保育室内に絵と言葉(名前)を照らし合わせたり、文字で表示する場所をつくる。
いりや第二保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・読みたいときにいつでも読める、見ることが出来る環境づくり。 ・保育者による読み聞かせ、自分で選んで自分で読む、見る時間を毎日持つ。 ・毎週火曜日に貸出しを行っている(蔵書約900冊)(自分で1冊選び、翌週の火曜日に返却) ・セレクト絵(季節や子どもたちの興味に合わせて保育者が選んだ絵本3冊を、3か所に分かれて読み聞かせを行う。) ・自分で選び、担任また担任以外の保育者による読み聞かせを楽しむ。(毎月1~2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとり ・頭文字あそび ・反対ことば ・なぞなぞ ・手紙ごっこ ・かるたあそび ・マジカルバナナ ・同じ言葉で違う意味の言葉集め ・ビンゴゲーム(9ますのカードを使い、数字、果物の名前等あらかじめ決めたものを自分で書いておく)
聖保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・一日1冊は絵本(紙芝居)の読み聞かせを行っている。 ・素話を聞く機会も設けている。 ・月に数回外部の先生が来園し行っている学習指導で音読を教わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとり、文字ビンゴ等ゲームに取り入れている・なぞなぞや逆言葉、回文等 ・学習指導で、言葉集め、も楽しんでいる
アスクとわり保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本コーナーは、周りから干渉されにくい、落ち着いた空間づくりにしている。 ・絵本棚の一角に「せんせいとよむほん」「おすすめえほん」の場所を設け、表紙が見えるように置いていることで、子どもたちが様々な本に興味を示せるように工夫している。 ・ストーリーが長い絵本や難しい絵本を保育者と一緒に読むことで子どもたちが自主的に絵本を読みたいと思えるようにしている。(別紙6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵しりとり (わらい)遊びの中でたくさんの言葉を知ること、子どもたちは新しい言葉を吸収し、その後、自分で使っていくことでしっかり定着される。 ・絵を楽しむだけでなく、語彙にあった絵を考える思考力を養いつつ意欲を引き出して保育者の働きかけ ・一緒に遊んで自然と新しい言葉に子どもたちが触れられるようにする(子どもの姿)・絵しりとりのルールを理解しながら遊ぶ事で、自然に言葉の音節に気づき、楽しんでいく。 ・様々なものの名前や単語を知り、例えば「あ」から始まる食べ物、動植物など繋げて遊びに発展させている。 ○お手紙ごっこ(わらい)・言葉を伝えたい相手を思い浮かべて自分の気持ちを伝えることにより、相手を思いやる気持ちを育てる。 ・手紙を読んでもらう喜び、親しい人から手紙をもらう。(子どもの姿)・自分がわからない表現は、保育者に聞きまわ、新しい言葉の表現や書き方を覚えようとした。 ・絵本の言葉や自分が言われてうれしい言葉を、字に表したものを手紙にもらい、声に出して読んでもらい喜んでいく。
アスク舎人駅前保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝朝の会で1冊保育者が絵本の読み聞かせを行っている。読む絵本は次に行う活動に沿ったものや職員がおすすめするものを選んでいく。 ・月1回、20分程度、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施している。(3~5歳児対象)(別紙7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナー遊びの中に、文字や数字に触れられるワークや玩具コーナーを設置し、自由に手に取れる環境を作っている。 ・4、5歳児のクラス活動の中で、しりとり同等音探し、連想ゲーム、私は誰でしょうクイズ等を行っている。 ・着席している時は発言できるが、前に立つと緊張してしまい発言できないこともある為、前に出て発表することも活動の中に入れていく。
てのひら子ども園	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡前に5分程度の読み聞かせをしている。(子供が好きな絵本を選んだり、季節に応じた絵本などを保育者が選出) 	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとり ボードの絵で示しながら進めていき、最後にテンポよくみんな読んでいく。 ・文字遊びカード ・絵合わせカード ・あいうえお50音表を貼る。 ・なぞなぞを出し合う「あ」がついていて..など。 ・歌の歌詞を書いて張り、見ながら歌う。
舎人小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書(水曜日朝15分間) ・年間読書目標の設定(読書通帳の活用) ・読書旬間(6月・10月) ・読み聞かせ(図書ボランティアによる) ・読書感想文の取組 ・調べる学習コンクールに関わる図書活用 ・区立図書館団体貸出活用(各学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM(1年生の言葉の学習) ・新聞活用(高学年) ・俳句作り(一茶まつり) ・評語やスローガン作り ・百人一首(全学年) ・家庭学習による音読の習慣化
舎人第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書(毎週金曜日15分間) ・読書月間(10月) ・年間読書目標(1~3年50冊 4~6年5000ページ 読書通帳) ・読み聞かせ(図書ボランティア) ・読書感想文 ・ひまわり親子読書(1~2年生) ・読書はがき ・読書ビンゴ(通年) ・絵本給食(教科書に出てくる物語から) ・オススの本紹介(図書委員のオススメ本と紹介文コーナー設置) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM(1年生の言葉の学習) ・俳句作り(一茶まつり) ・新聞活用(高学年) ・百人一首(全学年) ・音読(家庭学習) ・校内俳句大会 ・標語作り(交通安全、いじめ防止など) ・スローガンづくり(今年度は35周年記念)
足立入谷小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・読書マラソン(年間読書活動) ・読書旬間(10月) ・読書感想文の取組 ・国語科と関連した区立図書館団体貸出 ・調べる学習コンクールに関わる図書活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM(1年生の言葉の学習) ・朝のパワーアップタイム年間音読 ・俳句作り(一茶まつり) ・評語やスローガン作り ・新聞活用(高学年) ・百人一首(全学年) ・家庭学習による音読の習慣化
古千谷小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書(火~金毎朝15分間) ・読書旬間(6月・10月) ・読書マラソン(年間読書活動) ・調べる学習コンクールに関わる図書活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIM(1年生の言葉の学習) ・地域の方々による低学年「お話し会」 ・俳句作り(一茶まつり) ・家庭学習による音読の習慣化 ・百人一首(全学年)

「あだち幼保小接続期カリキュラム家庭版」について

幼児教育から小学校教育への滑らかな移行のために家庭でも大切にしていきたいことを、わかりやすくまとめたものです。

毎年、就学前施設から5歳児の保護者へ、配布していただいております。

幼稚園・保育園・小学校が保護者の方々とともに子どもたちの健やかな成長を支援していく手だてとして、ご活用いただければ幸いです。

※外国語版（英・中・韓）もあります。

～ホームページはこちら～



<https://www.city.adachi.tokyo.jp/syugaku-zen/k-kyoiku/kosodate/yochien-5program.html>

あだち幼保小接続期カリキュラム 家庭版

保護者の皆さまへ

(5歳児の時) (6歳児の時)
幼児教育から小学校教育への
滑らかな移行のために

家庭で心がけたい

10の大切なこと



足立区教育委員会
就学前教育推進課
☎ 03-3880-5431

I 基本的な生活習慣

基本的な生活習慣を身につけることが、子どもの学ぶ意欲や体力、集中力を高めるための基盤となります。ご家庭と園が協力して取り組んでいきましょう。

1 早寝・早起き・朝ごはん

早く寝て、早起きをして、しっかり朝ごはんを食べて、元気に学校に送り出しましょう。



ひと口目は野菜から食べよう

食事を野菜から食べている子どもの方が、肥満傾向の割合が低くなっています(※1)。こうした観点から、足立区では「ひと口目は野菜から」を推奨しています。

2 自分で歯をみがく

食後に、「歯をみがこう」と声をかけることで、自分から歯をみがく習慣が身につけていきます。みがきにくいところは、1年生になっても手伝ってあげましょう。



3 身の回りのことを自分で

特に、持ち物の整理を自分でする習慣をつけましょう。保護者とお子さんで一緒にしながら、少しずつ自分でできるようにしていきます。



II 他者との関わり

「相手に喜ばれ、感謝されている」「自分は受け入れられている」という体験の積み重ねが、子どもの自己肯定感を高めます。親子の関わりを大切にいきましょう。

4 家族の一員として

簡単なお手伝いから始め、家族から感謝される、心地よい体験を積み重ねましょう。



5 話す・聞く



お父さんの話は最後まで聞き、質問には一緒に考えて答えをあげましょう。話を聞いてもらえる体験を重ねることが、人とじっくり関わり、話を聞く姿勢につながります。

6 よいこと・悪いこと

「なぜしてはいけないのか」を自分で考える場や、「やってよいこと・悪いこと」「どうしてきまりがあるのか」を家族とともに考える場をもちましょう。



7 受け入れること



「そう思ったんだね」「そういう考えもあるね」と、お父さんの思いや考えを受け止めてあげましょう。

III 学びの芽生え

夢になっただけで遊ぶ中で、子どもは様々なことを体験し、学んでいきます。ご家庭でも、親子で楽しい体験を重ねましょう。

8 生活に絵本を



図書館には楽しいイベントがいっぱい! 足立区立図書館トップページで検索

絵本の読み語りには、お父さんの想像力、言葉や文字への興味を広げるだけでなく、親子のつながりも深めます。絵本と一緒に読みながら、親子の会話を楽しみましょう。

9 体を動かそう



歩く、走る、ジャンプ、投げる、重いものを持つなど、様々な動作を体験することで、多様な動きや身のこなしが体得できます。積極的に公園などに出かけ、体を動かして遊びましょう。



一日の生活の中で、体を動かして遊ぶ機会を意識しましょう

週3回以上体を動かす子どもは、週2回以下の子どもと比べて、「困ったことが起きても乗り越えていこう」という気持ち強い傾向にあることが明らかになっています(※2)。

10 自然に触れる体験を



お父さんと一緒に、夕陽を見る、星空を見上げる、花を育てる、動物と触れ合うなど、自然の楽しさや不思議さを体験しましょう。豊かな感性が育まれます。

(※1・2) 小中学生を対象とした足立区「平成29年度・子どもの健康・生活実態調査」の実施結果から

令和2年度 幼保小連携ブロック別一覧

ブロック	小学校	幼稚園・こども園	保育園（認証含）
1	千寿 千寿本町 千寿双葉 千寿常東 千寿桜 千寿第八	元宿 足立 聖和 中条 千住寿	千住あずま 緑町 日ノ出町 千住 せきや Jキッズルミネ北千住 クレアナーサリー千住大橋 たんぼぼ保育所北千住園 ういず千住大橋駅前 ういず千住曙町 あい保育園千住大橋 北千住こども園 ぼけっとランド千住曙町 北千住もみじの森 北千住どろんこ まなびの森保育園千住大橋 アスク千住 キッズガーデン足立柳原 帝京科学大学千住桜木 北千住太陽 ステラ千住ふたば まなびの森保育園関屋
2	江北 高野 扇 宮城	足立サレジオ 東京白百合 江北さくら	上沼田 宮城 さつき あい・あい保育園高野園 江北 三星 大空と大地のなーさりい扇大橋園 にじいろ保育園江北 江北すきつぷ 足立しらゆり
3	興本 西新井第一 西新井 本木 寺地	足立愛育 足立双葉 興南 西新井 黒田 第一若草	本木 本木東 興本 興野 西新井教会 西新井聖華 いづみ 扇ころろ チェリッシュ西新井 キッズガーデン足立扇 アスク扇 キッズガーデン足立興野 愛恵保育園にしあらい
4	亀田 栗原 関原 梅島 島根 梅島第一 梅島第二	梅島 こだま 満願寺 橋 専念寺 八千代	梅田 中部ひまわり 足立ひまわり 島根 栗原つくし うめだ「子供の家」 親隣館 島根いちい 西新井きらきら 西新井きらきら第二 エーワン梅島 ちぐさ バンビ保育園梅島園 日生梅島保育園ひびき 日生梅島第二保育園ひびき にじいろ保育園梅島 たんぼぼ保育所西新井南園 ちやいれつく西新井駅前 キッズガーデン足立島根
5	弥生 足立 弘道 弘道第一	弘道 五反野 春光 城北 のぞみ	中央本町 五反野 やよい 高和 西綾瀬りりおっこ 子ひばり 聖華こうどう 足立梅島雲母 足立さくらんぼ トレジャーキッズあやせ ぱる★キッズ足立 キッズガーデン足立青井
6	長門 綾瀬 東加平 東瀏江 北三谷 大谷田 東綾瀬	足立白うめ 親愛 チェリー 美松学園 聖フランシスコ	あやせ 東綾瀬 足立若葉 隅田学園 にじいろ保育園綾瀬 東 チェリー 東部若葉 聖母のさゆり 東綾瀬きらきら 東和 コンビプラザ綾瀬 キッズガーデン足立綾瀬 どんぐり保育園東和 チェリッシュ綾瀬 恵・YOU ぼけっとランド綾瀬 ビーフエア東和親水 北綾瀬聖華 あやせババール園 ソラストあだち東和
7	中川東 辰沼 中川 中川北 六木	おおやた 東京いずみ 黒川 六木	大谷田第一 辰沼 六木 神明町 きたあやせこころ ナーサリースクールいずみ大谷田 チェリッシュやなか チェリッシュ北綾瀬 あい・あい保育園北綾瀬園 未来っ子保育園北加平町園 足立北綾瀬雲母
8	青井 栗島 平野 加平 東栗原	あおい 足立つくし 栗島	東栗原 平野 青井 たんぼぼ保育所六町園 クレアナーサリー足立さくら園 六町駅前 野のはな たんぼぼ保育所第二六町園 明日葉保育園青井園 あい・あい保育園綾瀬六丁目園 明日葉保育園保塚園
9	花畑第一 花畑西 花畑 桜花 花保	杉の子 石鍋 花畑八千代	花畑桑袋 東花畑 南保木間 六町あづま 愛隣 東保木間 レイモンド花畑 六町
10	竹の塚 中島根 瀏江 瀏江第一 西保木間 保木間	小倉 竹塚 ふちえ	北保木間 竹の塚北 中島根 西保木間 水神橋 竹の塚 保木間 瀏江 ちやいれつく竹ノ塚駅前 保育園ミルキーウェイ竹の塚 まなびの森保育園竹ノ塚
11	東伊興 伊興 西伊興 栗原北 西新井第二	佐藤 福寿院 はなぞの 本行寺第二伊興	伊興 西新井 清水 伊興すみれ 伊興大境 iー たんぼぼ保育所竹の塚園 ういず西新井 アスク西新井 くりはら愛育 こころたけのつか
12	鹿浜五色桜 鹿浜第一 北鹿浜 皿沼 鹿浜西 新田	鹿浜 江北白百合 鹿浜愛育	加賀 第三上沼田 新田わかば さくらんぼ保育園新田 足立このみ 太陽 ココロット 新田おひさま 谷在家 新田さくら 新田三丁目なかよし SAKURA保育園谷在家 保育園ヴィラ・ココロット 新田
13	舎人第一 舎人 古千谷 足立入谷	足立つばめ 足立みどり 舎人 とねり伊藤	いりや第一 いりや第二 聖 アスクとねり アスク舎人駅前 てのひらこども園



幼保小連携活動 報告

令和3年4月発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区教育委員会 教育指導部 就学前教育推進課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5431